

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の2001年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国庫（4,150,000円）県費（2,075,000円）の補助金の交付を受け、平成13年4月1日から平成14年3月29日まで、整理作業は平成13年4月1日から平成15年3月28日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	池本敏雄	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医(平成8年5月1日 ～平成14年8月31日)・早川由利子(平成14年9月17日～)
生涯学習課長	金子忠弘		
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 本書の執筆は縄文時代の遺物を今井堯、第Ⅸ章（2）を土本医、それ以外を鍋島が行なった。
 挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美 土器復元：中田藤子 旧石器実測：土本医
 土器実測・拓影：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、丹治つや子、福島雅子、山口妙子
 トレース：小林登喜江 表作成：植田勢津子、福島雅子 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、
 須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、福島雅子 遺構写真：鍋島直久、高崎直成、土本医、坪田幹男
 遺物写真：小室 登（巻頭遺物写真）、鍋島直久、青山奈保美
 遺物洗浄・注記・石器実測の一部を（株）東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田明、浅野晴樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、上田寛、内田賢司、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、
 加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、小室登、桜井信枝、
 笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、丹治剛、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、堀善之、
 松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治、
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 浅野賢太郎、新井和枝、飯塚泰子、伊藤弘一、伊藤大地、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、大塚香、
 笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤裕幸、篠崎忠三、嶋田侑一郎、
 鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高貝しづ子、田畑真基、戸澤竹二、中嶋末子、新本伸枝、野岡由紀子、
 林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、松村さとみ、三村美代子、村端和樹、横井治水、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、小野太樹、小野寺佳代、加藤淳子、蕪木友美、鎌倉聖悟、
 小林登喜江、斎藤卓、椎名久美子、嶋田泰生、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、野口裕子、
 日比谷和美、福島雅子、前橋佑紀、丸山香織、本橋克則、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4、1:3 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じである。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム） 焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2001年度埋蔵文化財調査一覧表

No	遺跡・地点名	申請地	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第54地点	鶴ヶ岡2-28-17	56	148	個人住宅	13.4.24~13.4.27	試掘
2	亀居遺跡第55地点	鶴ヶ岡2-28-16	45	148	個人住宅	13.11.14~13.11.16	試掘
3	江川東遺跡第6地点	東久保1-168-7	15	71	個人住宅	13.7.17	試掘
4	亀久保堀遺跡第29地点	東久保29街区1.2.7.8画地	161	1,769	店舗	13.4.17 13.4.18~13.4.20	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
5	東久保遺跡第41地点	東久保4街区6.7画地	37	112	個人住宅	13.5.28~13.5.29	試掘
6	東久保遺跡第42地点	東久保19街区10画地	160	864	駐車場	13.4.18~13.4.21	試掘
7	東久保遺跡第43地点	東久保15街区14.15画地	37	142	個人住宅	13.5.22~13.5.25	試掘
8	東久保遺跡第44地点	東久保19街区9・11・12画地	186	757	倉庫	13.5.10~13.6.29	試掘
9	東久保遺跡第45地点	亀久保258-21	31.5	100	個人住宅	13.6.1	試掘
10	東久保遺跡第46地点	東久保17街区3・4画地	49	135	個人住宅	13.6.4~13.6.6	試掘
11	東久保遺跡第47地点	東久保31街区6・13画地	321	1,203	店舗	13.10.11~13.10.26	試掘
12	東久保遺跡第48地点	東久保18街区9・10画地	178	518	分譲住宅	13.12.12~13.12.25	試掘
13	東久保遺跡第49地点	東久保13街区7画地	1	100	分譲住宅	14.2.12~14.2.13	試掘
14	東久保西遺跡第11地点	東久保12街区5・9画地	79	1,445	駐車場	13.6.11~13.6.12	試掘
15	東久保西遺跡第12地点	東久保11街区9・13画地	387	1,074	店舗	13.6.25~13.7.2	試掘
16	東久保西遺跡第13地点	東久保14街区11画地	27.2	275	個人住宅	13.10.13~13.10.26	試掘
17	東久保西遺跡第14地点	東久保11街区10画地	60	237	店舗	14.1.31~14.2.4	試掘
18	東久保南遺跡第24地点	東久保49街区6画地	420	1,051	共同住宅	13.4.2~14.4.8	試掘
19	東久保南遺跡第25地点	東久保49街区2・3画地	596.6	1,388	中古車展示場	13.9.26~13.10.12	試掘
20	東久保南遺跡第26地点	東久保63街区3画地	40.5	208	店舗	13.10.30~13.11.1	試掘
21	西ノ原遺跡第120地点	大井・苗間24街区4画地	466	1,120	共同住宅	13.5.7~13.5.15	試掘
22	西ノ原遺跡第121地点	旭1-15	764	803	個人住宅	14.2.7~14.3.8	教育委員会で本調査
23	西ノ原遺跡第122地点	大井・苗間14街区8画地	252	593	共同住宅	14.3.9~14.3.19 14.6.21~14.7.22	試掘調査後教育 委員会で本調査
24	中沢前遺跡第23地点	大井・苗間30街区1画地	85	261	個人住宅	13.5.11~13.5.15	試掘調査後教育 委員会で本調査
25	神明後遺跡第15地点	苗間字神明後293-15	50	163	個人住宅	13.4.11 13.4.12~13.4.13	試掘調査後教育 委員会で本調査
26	神明後遺跡第16地点	苗間字神明後309-14	189	165	個人住宅	13.7.23~13.7.24 13.7.25~13.9.3	試掘調査後教育 委員会で本調査
27	神明後遺跡第17地点	苗間字神明後369-1	7.5	581	個人住宅	14.3.28	試掘
28	苗間東久保遺跡第22地点	苗間645-11	6	99	個人住宅	13.10.25	試掘
29	浄禅寺跡遺跡第20地点	苗間字神明後351-1	17.6	223	倉庫	13.10.26~13.10.29	試掘
30	浄禅寺跡遺跡第21地点	苗間字東久保591-3,592-7	12	182	個人住宅	13.11.19~13.11.20	試掘
31	本村遺跡第96地点	苗間101街区5画地	99	301	個人住宅	13.7.10~13.7.13	試掘
32	本村遺跡第97地点	大井・苗間82街区11画地	40.5	132	個人住宅	13.7.11~13.7.12	試掘
33	本村遺跡第98地点	大井・苗間94街区1画地	17	144	学童保育所	13.12.17~13.12.19	試掘
34	東台遺跡第34地点	大井字東台624-2	608	1,414	共同住宅	14.3.12~14.3.25 14.3.26~14.5.8	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
35	東台遺跡第35地点	大井字東台649-31	7.5	48	個人住宅	13.9.6~13.9.8	試掘
36	東台遺跡第36地点	大井字東台614	136	272	倉庫	13.10.15~13.11.2	試掘
37	東台遺跡第37地点	大井字東台626-12	101	100	個人住宅	13.10.12~13.11.5	教育委員会で本調査
38	東台遺跡第38地点	大井字東台614-3	400	787	駐車場	14.1.28~14.2.15	試掘
合 計			6,145.9	19,133			

Ⅷ 西ノ原遺跡の調査

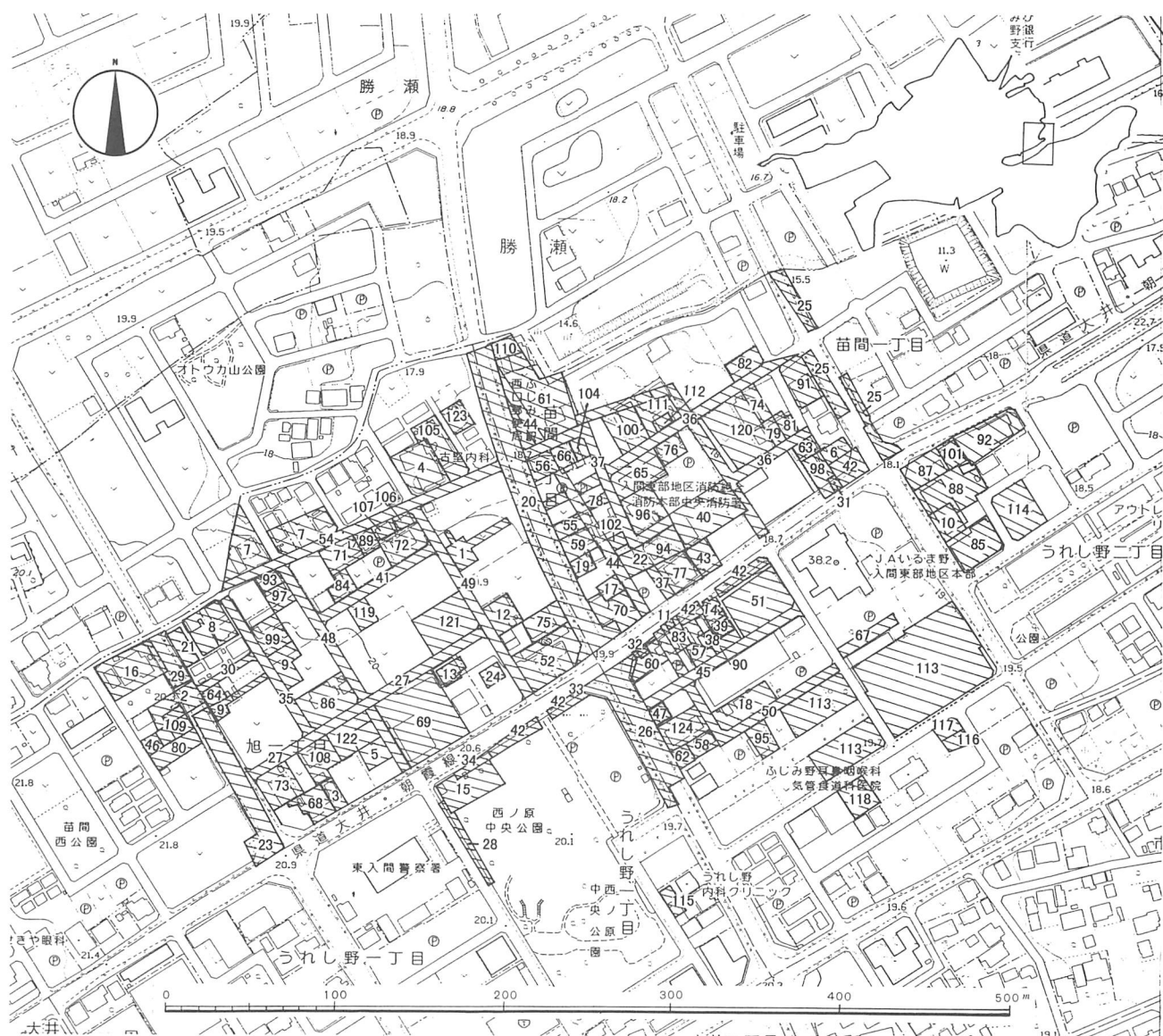
1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

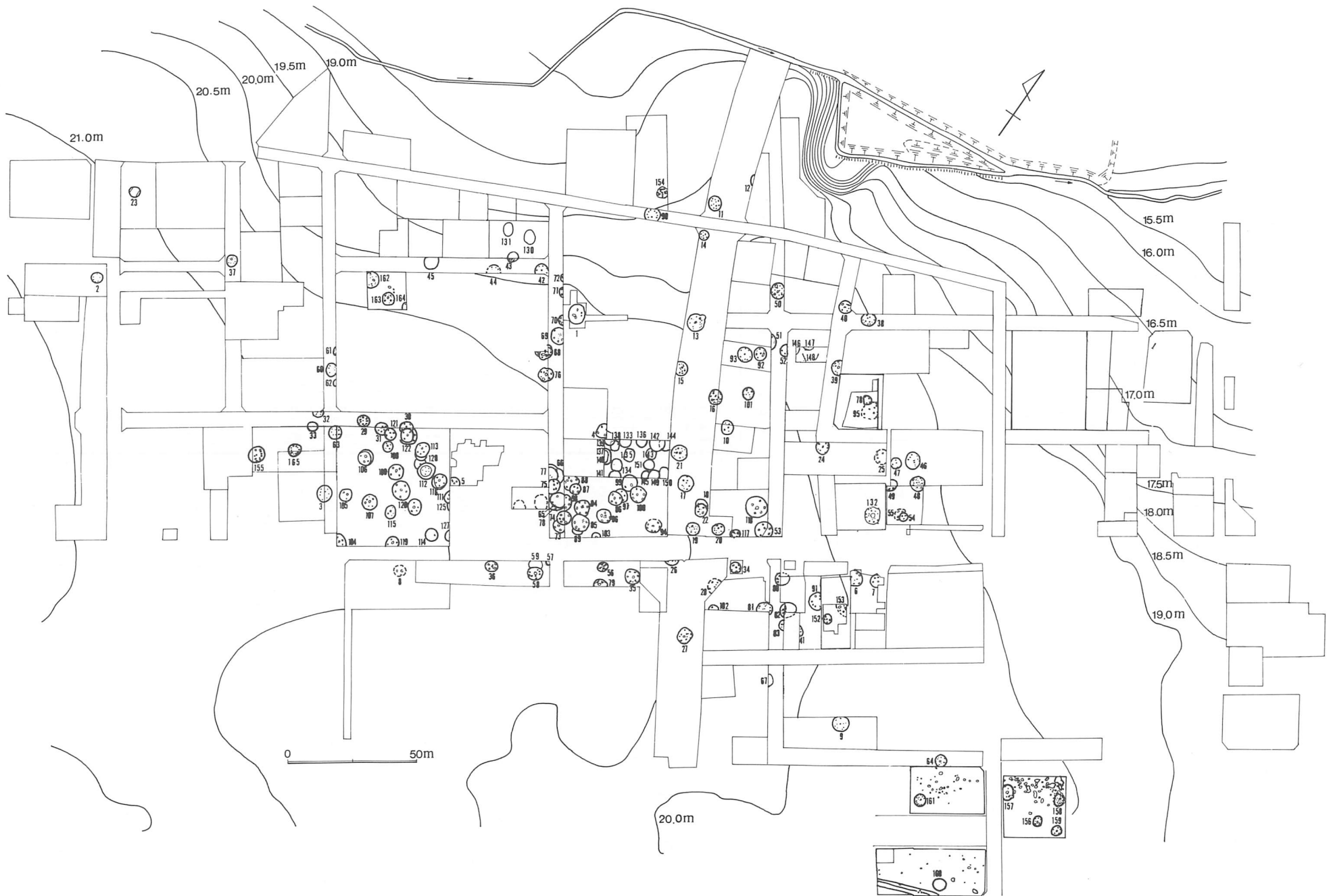
本遺跡の発掘調査率は町内遺跡群では突出している。昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯

であったが、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2003年2月現在で120地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、160軒を超す住居跡が環状集落として形成され町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

2003年2月現在の調査状況によると、縄文時代中期の住居跡が165軒確認されている。



第30図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第31図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居配置図 (1/2,000)

4 西ノ原遺跡第122地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2002年2月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部西寄りに位置し、縄文時代集落が環状に巡る部分に当たる。隣接する道路部分の調査から、住居跡の存在が確実に本調査が必要のため申請者と協議の結果、遺構密度確認の試掘調査を実施した。

調査は3月9日から幅約2.2mのトレンチ4本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。これまでに確認されている住居跡2軒、溝2本の他に新たに1軒の住居跡を確認した。遺構の写真撮影・全測図等を行なったうえ埋め戻しを行ない、3月19日調査を終了した。

本調査は、開発行為の変更があったが、平成14年6月7日から7月22日まで大井町教育委員会が実施し、縄文時代中期の住居跡3軒等を検出した。

(2) 遺構と遺物

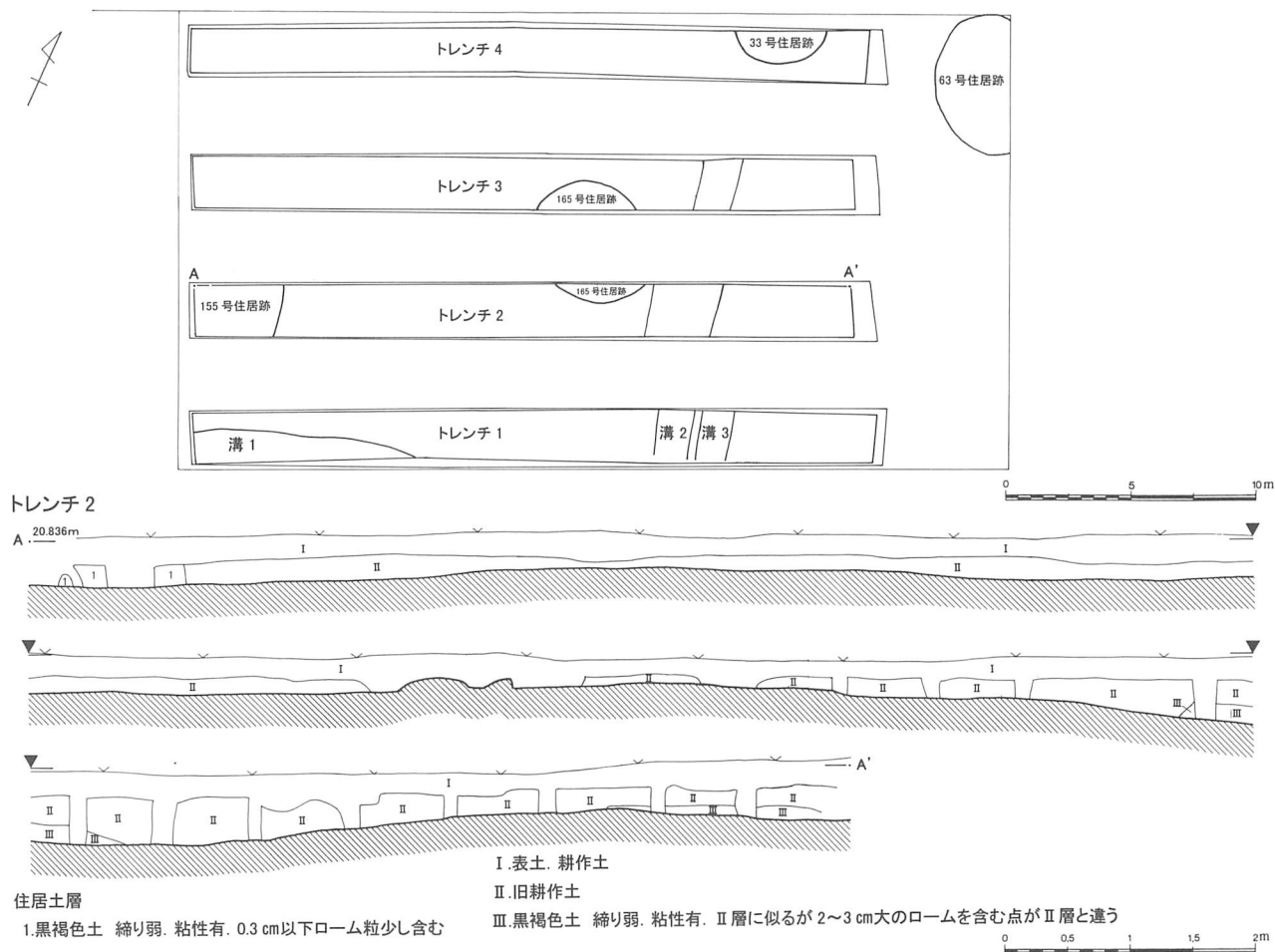
縄文時代住居跡の他、時期不明の溝を3本検出した。

【溝1】調査区南側に位置し、隣接する第108地点でも検出している。深さは最深部で34.3cmを測る。

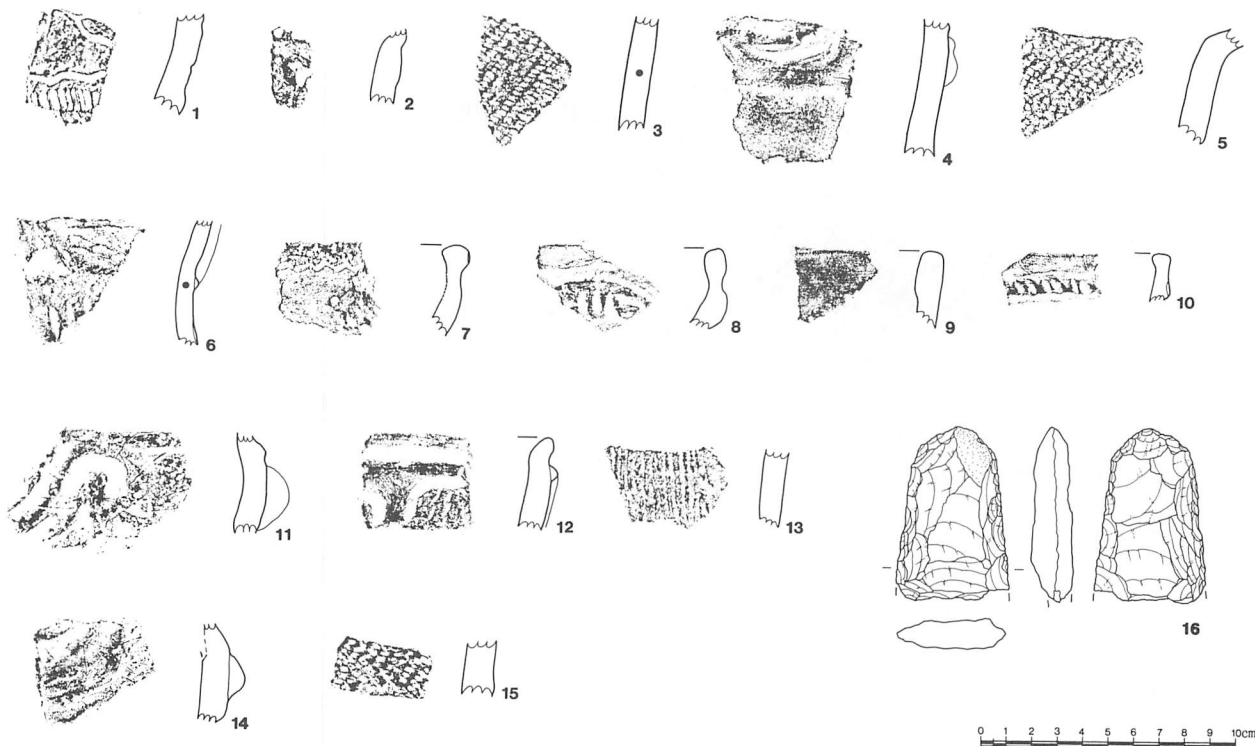
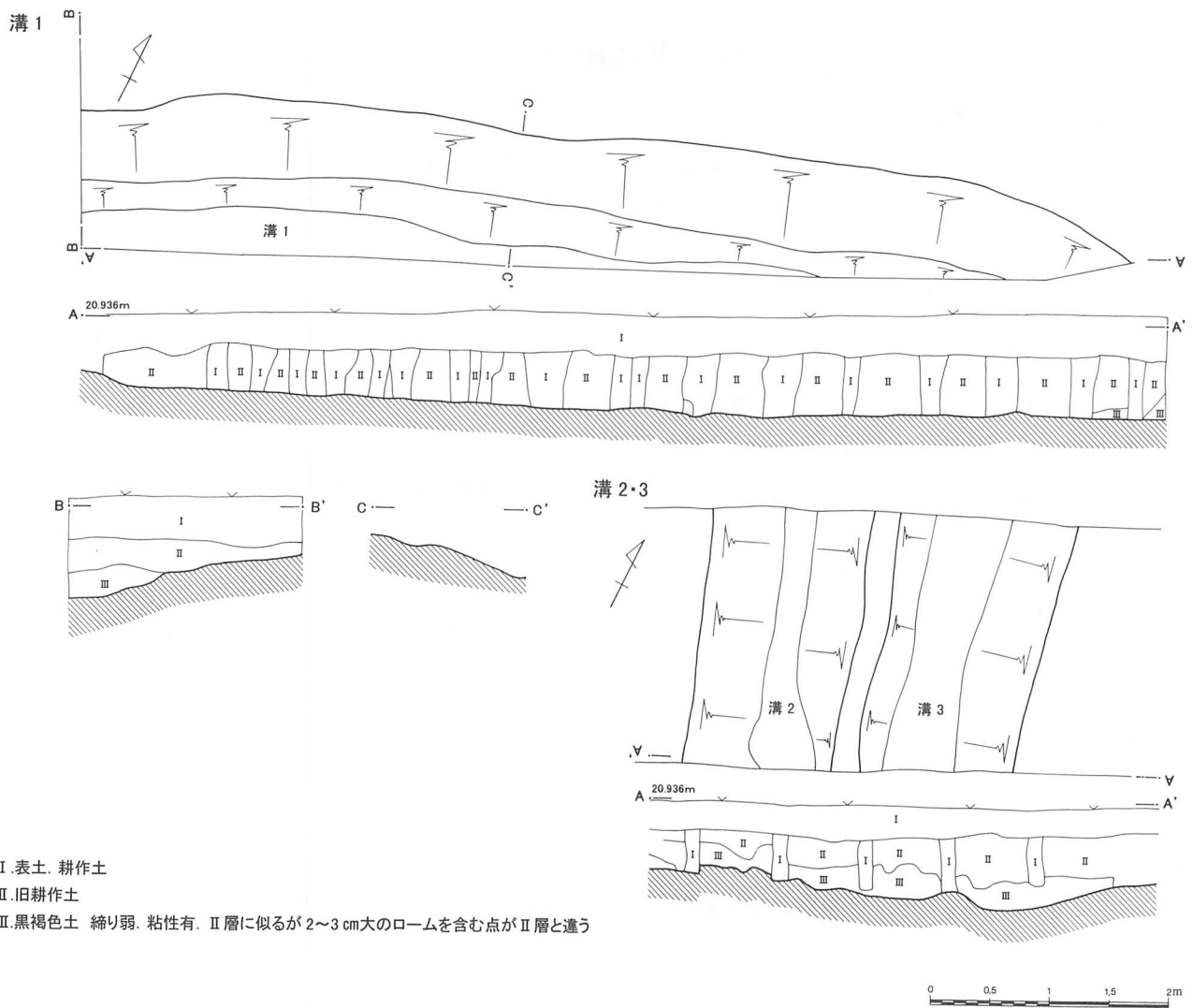
【溝2】調査区中央部で南北方向に2本が並行して延びる。規模は上幅1.24~1.45m、下幅22~64cm深さは最深部で30.8cmを測る。

【出土遺物】1~5は155号住居跡上部、6~16は遺構外出土土器である。1は幅広押引文と波形文のセットで勝坂Ⅱ式である。2は縄文を施し、3は胎土に金雲母を含む。4は口縁下部から頸部片で隆帯の区画文と無文帯である。5は頸部で縄文を施し、6は押引文を伴う区画文と爪形圧痕文をめぐらし胎土に金雲母を多く含む。7は押引波状文、8は沈線モチーフの口縁部片である。9と10は深鉢形土器の口縁部片である。11と12は渦巻文と区画文の口縁部片、13は地文撚糸文のみの胴部片である。14は浅鉢形土器の口縁部片である。15は地文縄文の胴部片である。

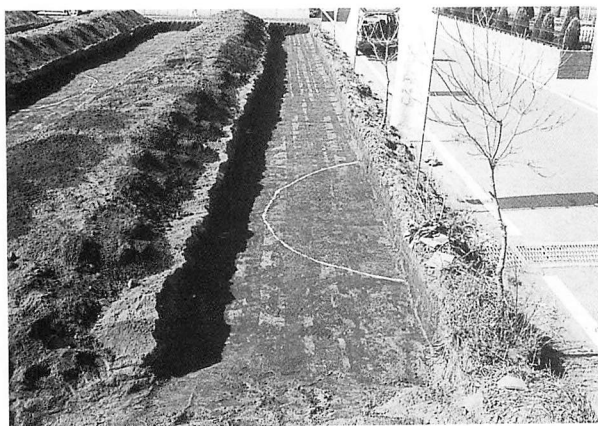
16は頁岩の打製石斧で重さ59gである。



第51図 西ノ原遺跡第122地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)



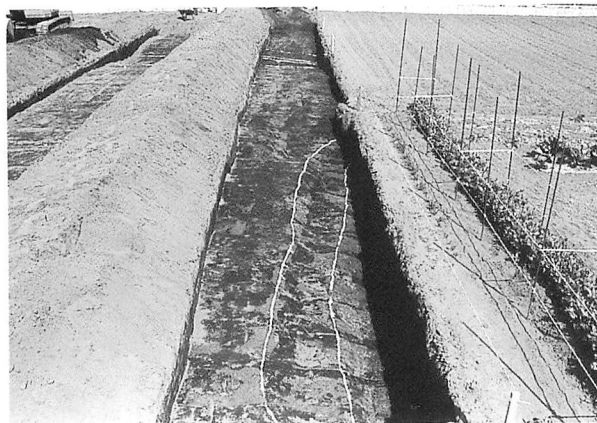
第52図 西ノ原遺跡第122地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/3)



西ノ原遺跡第122地点トレンチ 3



西ノ原遺跡第122地点トレンチ 4



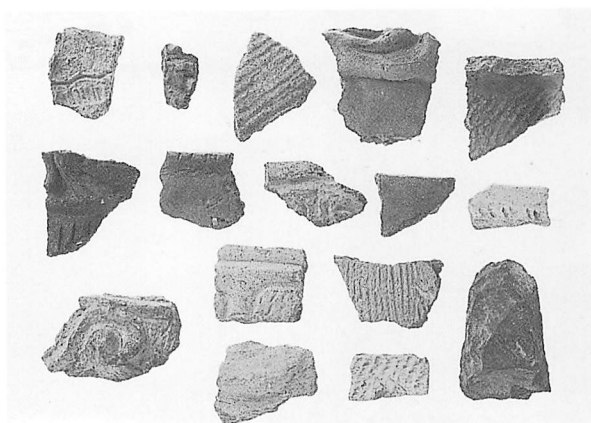
西ノ原遺跡第122地点溝 1



西ノ原遺跡第122地点溝 2・3



西ノ原遺跡第122地点調査風景



西ノ原遺跡第122地点出土遺物



中沢前遺跡第23地点調査区近景



中沢前遺跡第23地点旧石器出土状況

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

XIII 西ノ原遺跡の調査

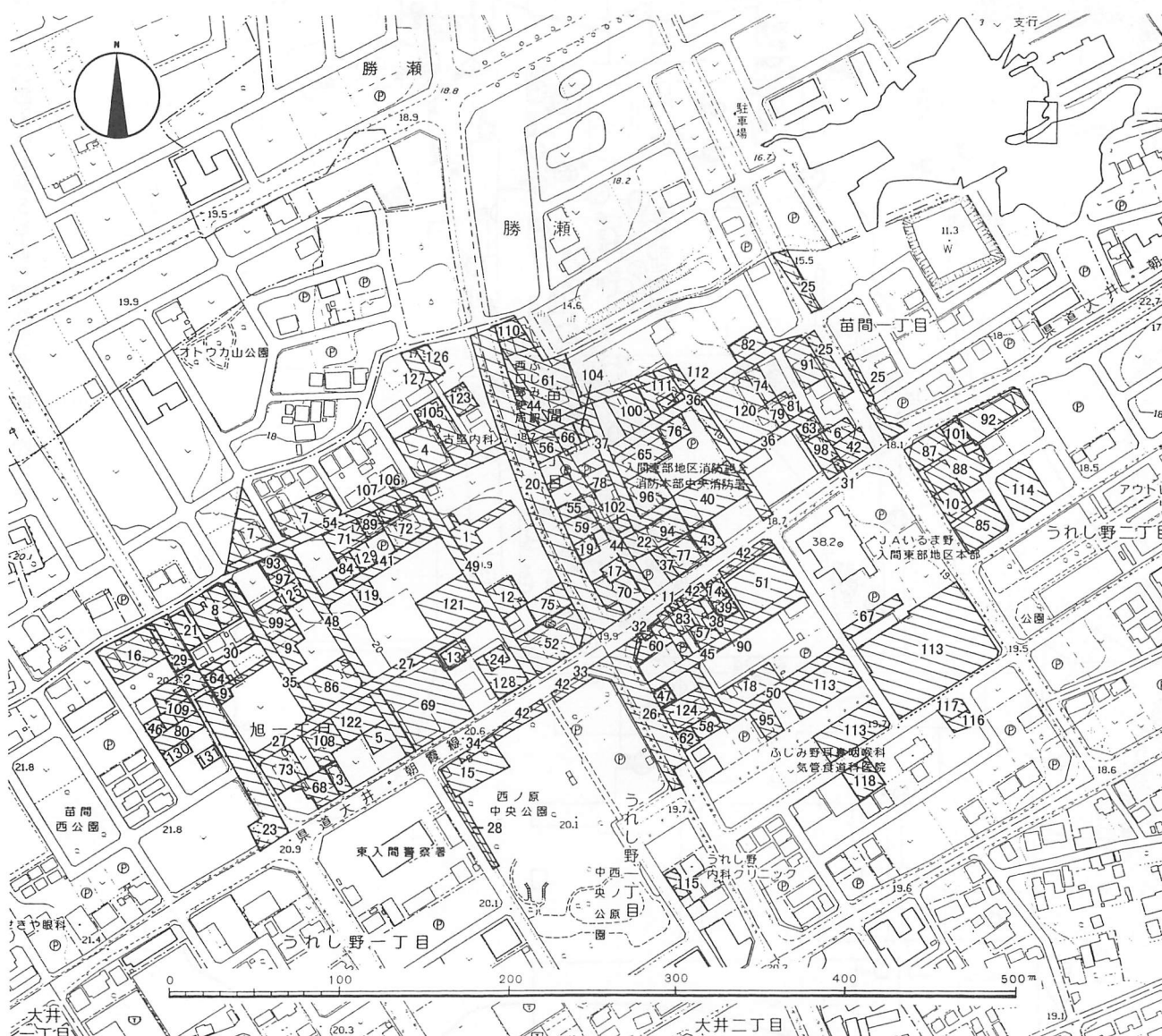
1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

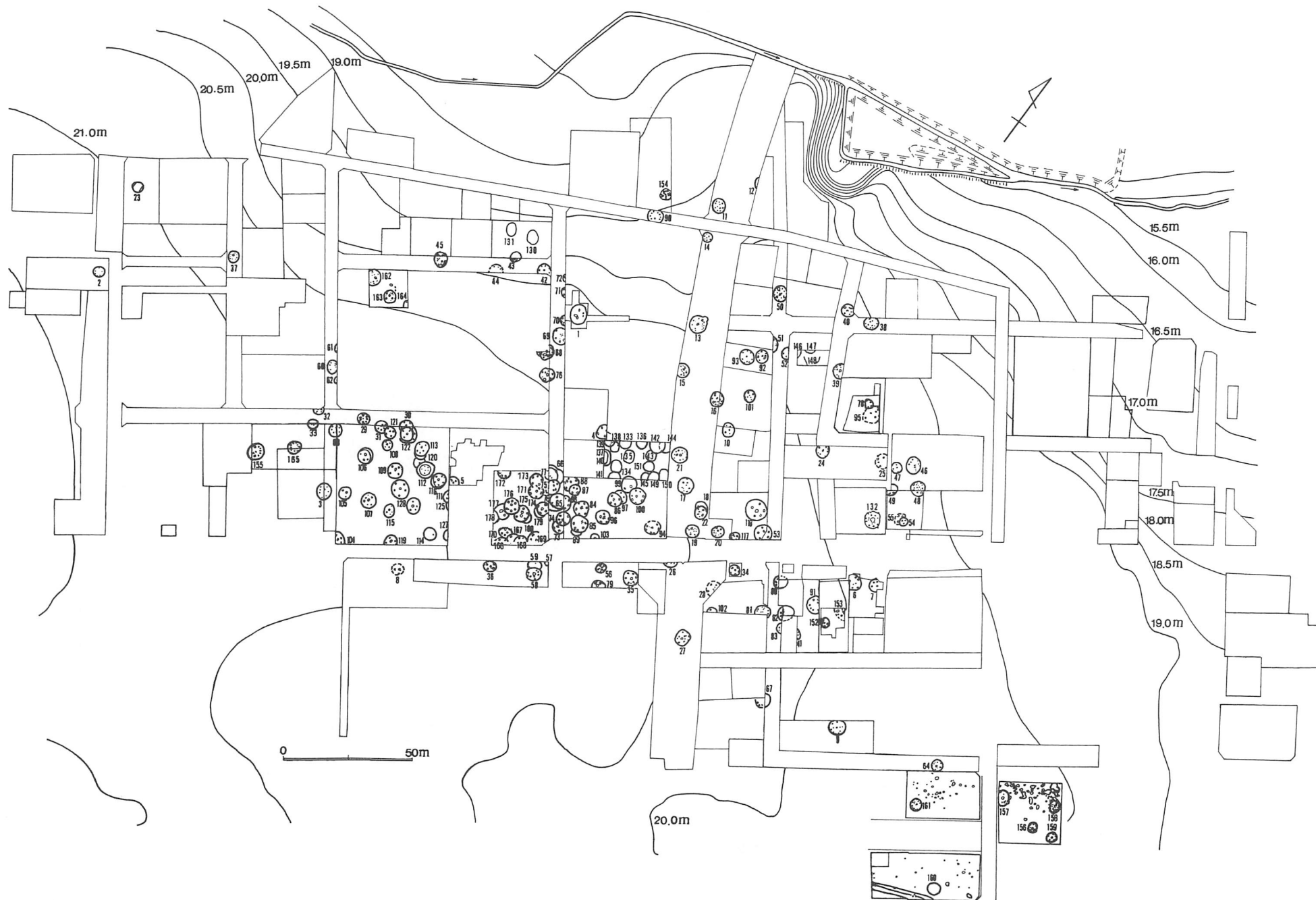
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2005年3月現在で131地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を超す住居跡が環状集落として形成され、町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第40図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第41図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居配置図（1/2,000）

2 西ノ原遺跡第122地点

(1) 調査の概要

調査地は以前共同住宅建設として2002年2月21日付
けで申請され、2002年3月に試掘調査済であるが、開
発行為の変更があり、今回個人住宅建設として新たに
2002年6月13日付で1件、同年6月19日付で3件、
計4件の原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が町教
育委員会に提出された。

本調査は2002年6月21日から同年7月22日まで行
なった。試掘調査で確認した住居跡の場所を重機で表
土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果、
縄文時代中期の住居跡3軒、ピットを検出し、写真撮
影・全測図等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を
終了した。

(2) 遺構と遺物

①33号住居跡

【位置】調査区の北端に位置する。西ノ原遺跡縄文集
落内では環状部分の西端にあたる。隣接する道路部分
を1988年に第27地点として調査し、住居跡の北半分を
検出している。（「西ノ原遺跡」大井町遺跡調査会1996
参照）

【形状】平面円形を呈する。規模は3.5×3.5m、確認
面からの深さは15cm。壁の立ち上がりは緩やかで浅い

皿状を呈する。

【炉】住居跡の中央に位置する。深鉢胴部を転用した
埋甕炉で、土器に囲われた炉床部は硬く焼けて赤化す
る。北側2/3は耕作（トラクター）により破壊され
残っていない。掘り込み規模は径85cm、深さ13cm。

【ピット】北側の第27地点で1基検出した。

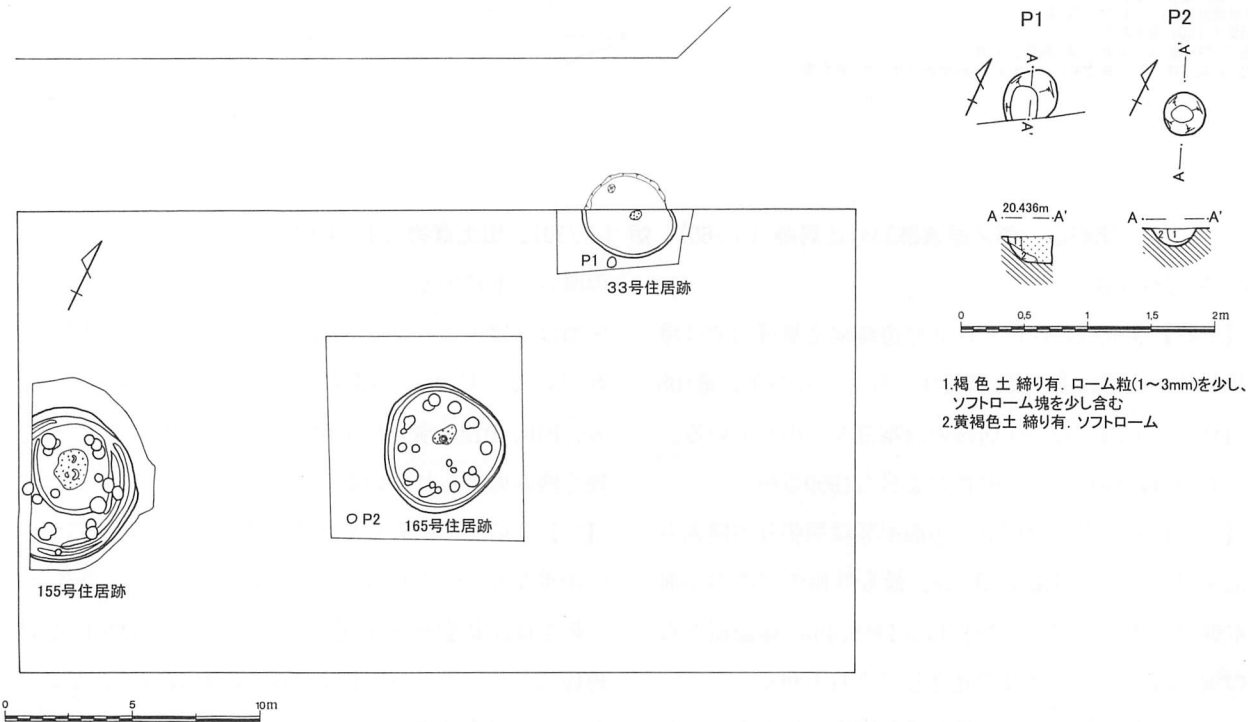
【時期】炉体土器から加曽利EⅠ新式中相。

【出土遺物】1は炉体土器で、大深鉢の胴部を利用し
ており、遺存部推径28cmで遺存部高16cmである。胴部
の地文は全面に施文された撚糸文で密に回転施文され
る。この上に隆帯貼付けによる蛇行懸垂文と直下懸垂
文が4単位作られるが、直下懸垂文は2本組みと3本
組みがある。遺存率は胴上部の40%である。胎土には
白色微砂粒、橙色粒子を多く含み焼成良好で、下半は
赤褐色、上半は赤褐色を呈する。内面の全面と外面の
上半には、2次被熱によるハジケが著しい。下部は粘
土を接続部を利用して上手に切り離されている。時期
は加曽利EⅠ新式中相であり、住居の時期を示す。

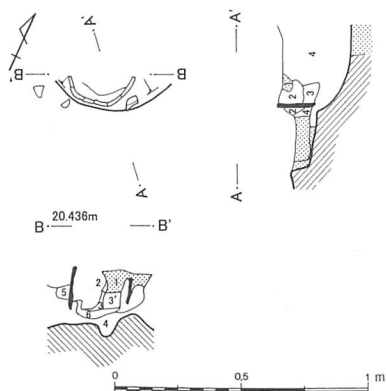
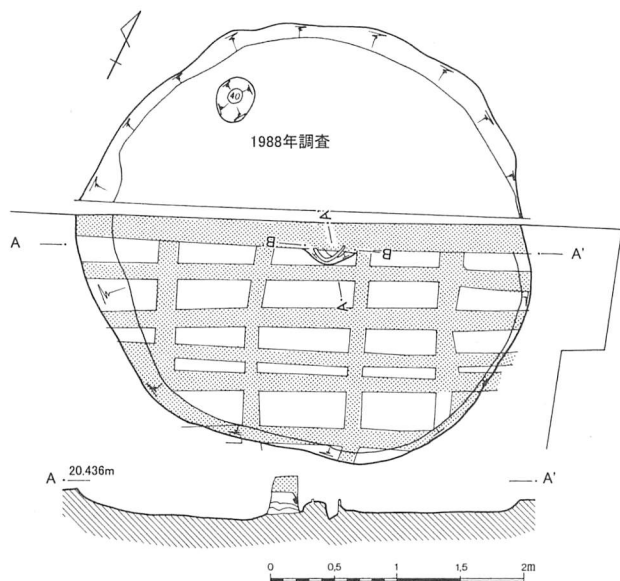
他に土器35片、礫29点が出土した。

第16表 西ノ原遺跡33号住居跡出土石器観察表（単位cm・g）

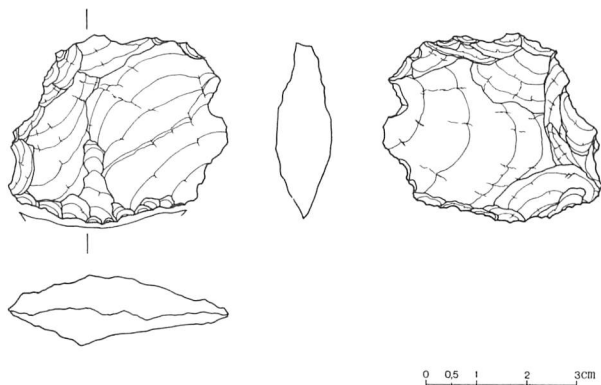
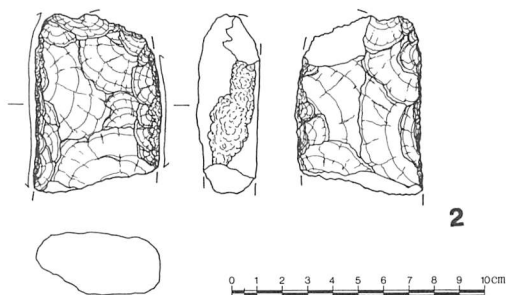
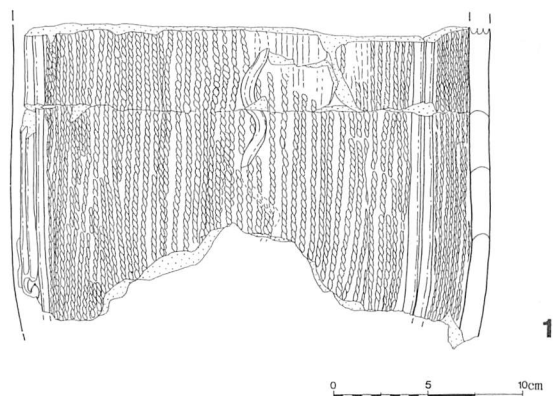
	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重量	
2	打製石斧	砂岩	7.1	5.0	2.5	123.5	刃部欠
3	剥片	頁岩	3.6	4.4	1.2	17.4	



第42図 西ノ原遺跡第122地点遺構配置図（1/300）、ピット（1/60）



1. 攪乱 もろい。焼土粒・ローム粒を多く含む黒色土
2. 暗褐色土 締り有。焼土粒(1~3mm)をやや多く、炭(1mm)を少し含む
3. 暗褐色土 締り有。焼土粒(1~5mm)を多く、焼けたローム粒(5mm)と炭(1~3mm)を少し含む
- 3' 3層が攪乱を受け、脆くなっている
4. 黄褐色土 地山、硬く焼ける
5. 褐色土 締り弱。ローム粒主体、暗褐色土混入
6. 褐色土 締り有。硬い。焼土粒(1~10mm)を多く含むガチガチ、焼土面



第43図 西ノ原遺跡33号住居跡 (1/60)、炉 (1/30)、出土遺物 (1/4・1/3・2/3)

②155号住居跡

【位置】調査区の西端、西ノ原遺跡縄文集落内では環状部分の西端にあたる。隣接する部分を1998年に第108地点として調査し、住居跡の西端部を検出している。〔町内遺跡群Ⅶ〕大井町教育委員会1999参照)

【形状】最も内側の周溝の平面形態は胴張りの隅丸方形を呈し、規模は3.5×3.1m。最も外側の周溝の平面形態は楕円形を呈し、規模は6.1×5.4m。確認面からの深さは35cm。壁はほぼ直立して立ち上がる。

床面直上の覆土中に多量の炭化物を検出した。炉2の南側3×1mの範囲やピットの上層に、5~10cm

の厚さで堆積する。

床面はほぼ平坦、ローム混じりの土で硬く踏み固められている。ピット・周溝も一部(P1、P14、P7、P8、P10、P12、溝4)を除き、ローム混じりの土で硬く踏み固められている。

【炉】住居跡の中央やや北側に位置する。新旧二つの炉が重なり、炉1が古く炉2が新しい。

炉1は深鉢胴部を転用した埋甕炉で、西側1/2は耕作(トラクター)により破壊され残っていない。掘り込み規模は径30cm、深さ16cm。炉体土器は勝坂Ⅲ式新相。

炉2は深鉢口縁部を転用した埋甕炉で、西側1/2はトレーチャーにより破壊され残っていない。土器に囲われた炉床部は熱で硬化し焼土が堆積する。掘り込み規模は70×55cm、深さ22cm。炉体土器は加曽利E1新式古相。

【周溝】周溝は4本検出した。北側の位置は変わらず、東側と南側に拡張していく。上幅は20～30cmである。

溝1は最も内側で、3.5×3.1mの規模があり、床面からの深さ15cm前後、断面「U」字形。暗褐色土とロームブロックの混合土で硬く踏み固められていた。

溝2は溝1から東側へ30cm、南側へ1m拡張し、南北4.6mの規模。床面から深さ25cm、断面「U」字形。

溝3は溝2から東側と南側に30cm拡張し、南北5.2mの規模。床面から深さ30cm前後。断面「コ」字形。

溝4は最外周で、溝3から南側に30cm拡張し、5.7×5.2mの規模。床面から深さ20cm、断面「コ」字形。

【ピット】

第17表 西ノ原遺跡155住居跡ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	楕円形	37	× (35)	19	× 19	73	P2より新
2	楕円形	52	× (38)	22	× 21	82	P1より旧
3	楕円形	55	× 42	24	× 21	32	
4	円形	28	× 27	14	× 12	68	
5	不整形	54	× 54	23	× 17	76	P6より旧
6	隅丸方形	30	× 26	15	× 14	53	P5より新
7	隅丸方形	37	× 37	20	× 16	63	P16より新
8	不整形	45	× (40)	30	× (25)	53	P17より新
9	隅丸方形	36	× 33	23	× 22	57	
10	楕円形	55	× 39	18	× 17	52	
11	円形	28	× 27	11	× 11	44	
12	楕円形	53	× 51	36	× 32	69	P13より新
13	円形	33	× (27)	22	× (15)	55	P12より旧
14	円形	43	× 39	15	× 12	74	
15	円形	38	× (35)	26	× 25	52	P1より旧
16	隅丸方形	32	× 29	18	× 15	57	P7より旧
17	不整形	55	× (50)	25	× (25)	57	P8より旧

炉・ピット・溝の埋没状況による新旧関係から、住居跡の初現状態は①炉1・溝1・P5-P4-P11-P13の4本柱で、柱穴間は1.5～1.8mを測る。最終状態は④炉2・溝4・P1-P14-P7-P8-P10-P12の6本柱で柱穴間は1.9～2.2mを測る。またP16→P7、P17→P8、P3→P14、溝3→溝4の変遷による③炉2・溝3・P1-P3-P16-P17-P10-P12の6本柱の組み合わせや、②炉1か2・溝3・P2-P5-P9-P13の4本柱の組み合わせが中間状態として想定できる。

【時期】炉体土器から炉1の旧住居は勝坂Ⅲ式新相。炉2の新住居は加曽利E1新式古相。

【出土遺物（1～14）】

1は炉1の炉体土器で、深鉢の胴上部文様帯の部分を利用したもので65%を遺存する。上部径23cm・現存部高13.6cmである。带状文様区画を縦位と渦状弧の隆帯で区画する。隆帯上には刻目を入れ、区画内には沈線で三叉文をつくる。胎土には白色砂粒を多く含み、赤～暗褐色を呈する。勝坂Ⅲ式新相であるが、炉1の小形住居の時期を示している。

2は炉2の炉体土器であり、深鉢の頸部無文帯下部以下を欠失するが、口径41cm・現存部高15.5cmである。ほぼ直立する無文の口唇下に口縁部文様帯がある。地文は横位に深く施文した撚糸文である。地文の上に2本組の隆帯で横位のつなぎ文をつくるが、先端はペン先状文と唐草文である。胎土には白色砂粒を含み、整形入念で焼成良好、赤～暗褐色を呈する。頸部無文帯は短い。加曽利E1新式古相であり、拡張された南側住居の時期を示している。

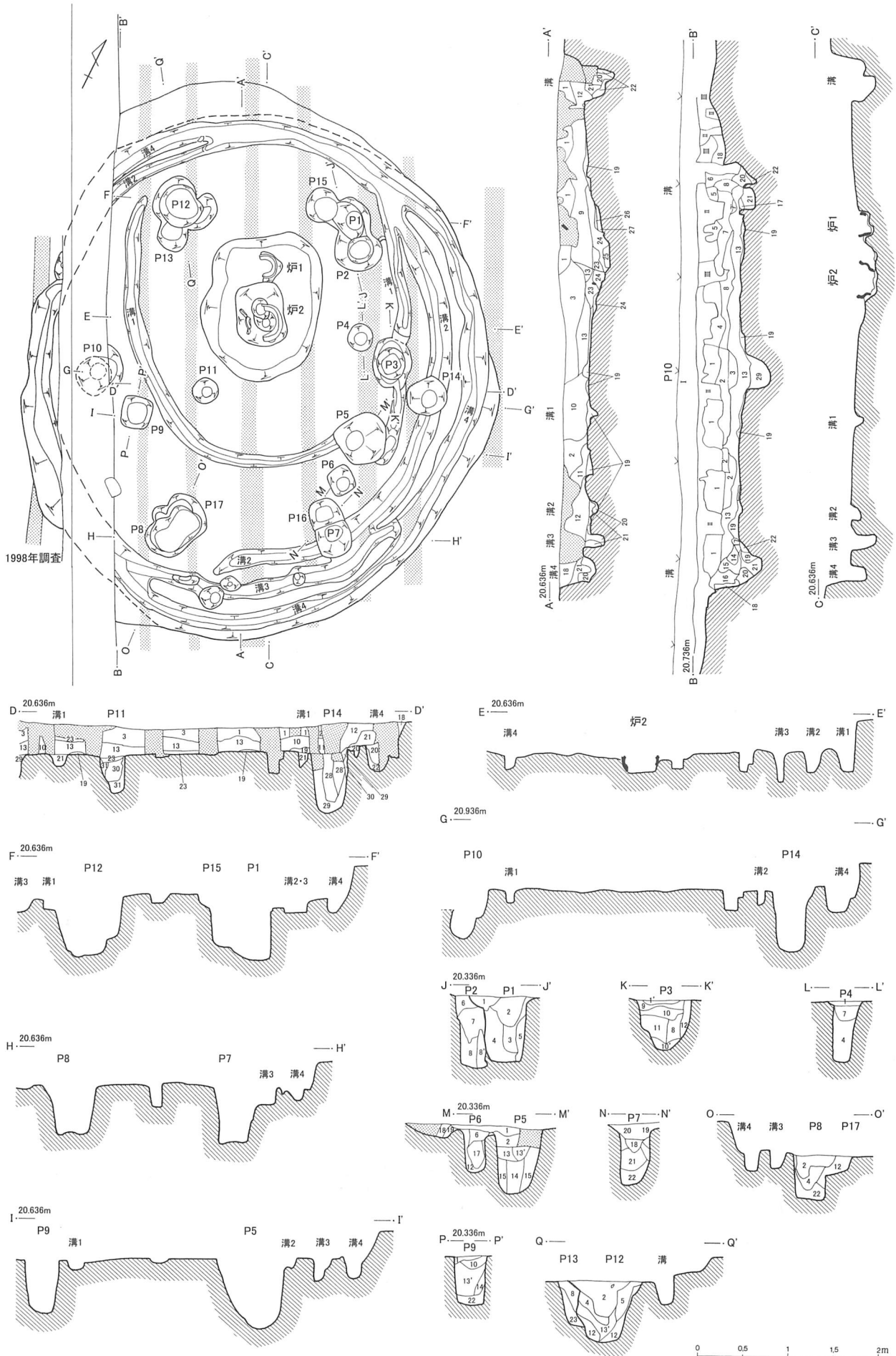
3は小深鉢で胴中部までが残る。無文口縁下の沈線に刺突を加える。胴部は密な単節縄文のみで、赤褐色を呈する。4は内傾する口縁部下に文様帯をもつ浅鉢で、沈線による渦巻文と方形区画文をもつ。3と4は炉1の炉体土器の時期に近い勝坂式末期のものである。

5は深鉢の口縁部で剥離が著しいが、横位施文の撚糸文を地文とし、突出した高い区画隆帯をもつ。6は縦位の撚糸文を地文とし、突出した区画隆帯の端部は渦巻き、波頭部上面にも渦巻文を入れる。7は区画文と渦巻文で口縁部文様帯をつくり地文は縄文である。8は、地文は沈線文で隆帯で変形区画文をつくる。5～8は頸部文様帯をもつ加曽利E1新式であるが、5はそのうちの古相である。

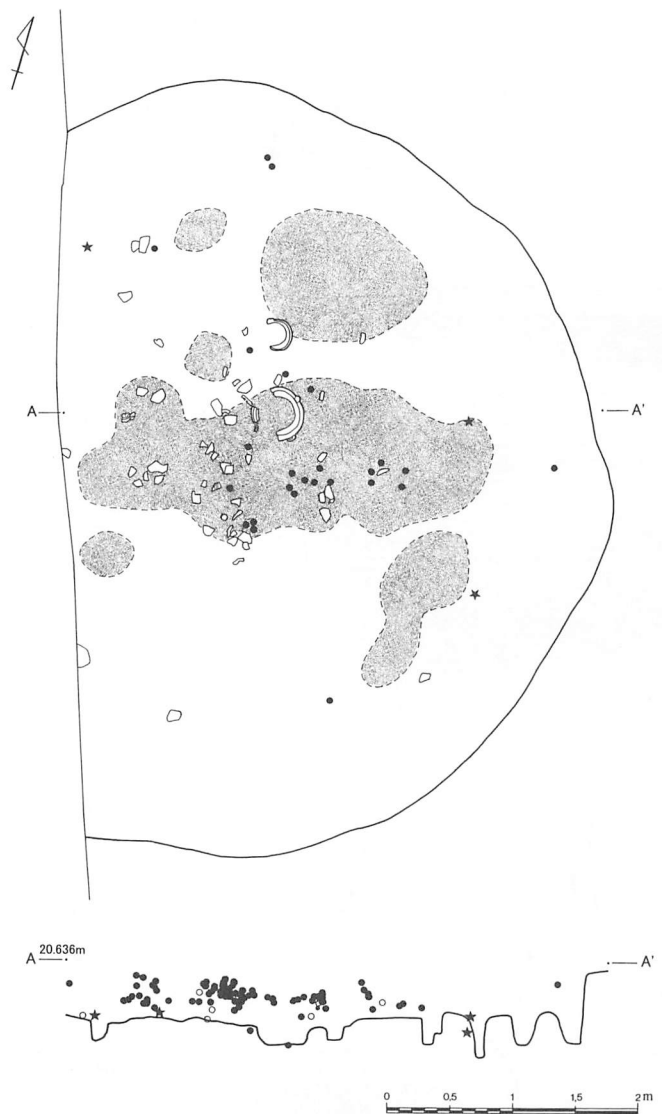
その他、覆土中より土器326片が出土したが割愛した。礫も109点出土している。

第18表 西ノ原遺跡155住居跡出土石器観察表 (単位cm・g)

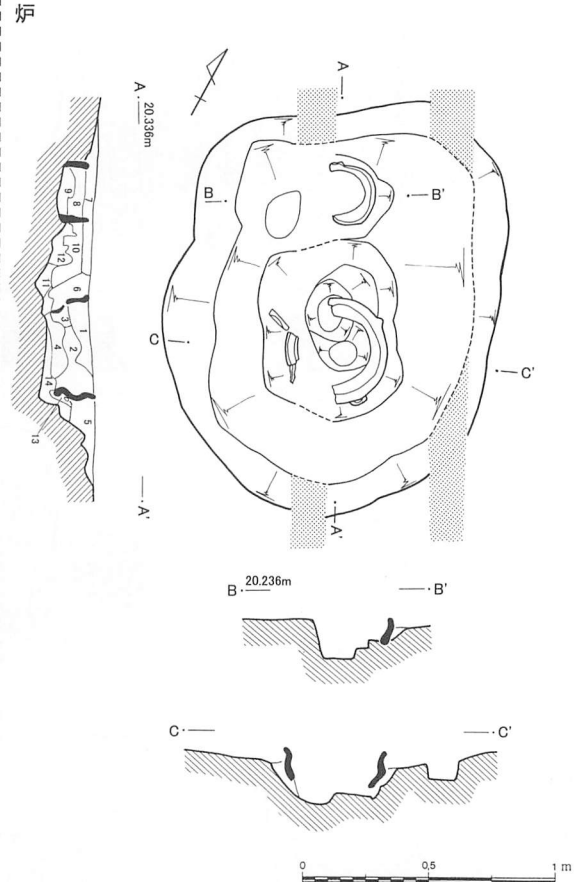
	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重量	
9	打製石斧	片岩	8.7	5.4	1.3	64.2	基部欠
10	打製石斧	片岩	7.5	3.3	0.7	20.8	基部欠
11	打製石斧	頁岩	5.4	4.4	1.7	60.0	基部欠
12	打製石斧	片岩	5.7	4.2	0.7	19.1	刃部欠
13	石鏃	黒曜石	2.1	1.6	0.6	2.1	
14	くぼみ石	緑泥片岩	14.8	9.8	1.5	225.9	一部欠
15	くぼみ石	緑泥片岩	20.2	12.3	3.0	1,041.0	一部欠



第44図 西ノ原遺跡155号住居跡 (1/60)



- I. 耕作土a. 暗褐色土 締り有. ローム粒極多く含む
- II. 耕作土b. 黒色土 締り無. トレーチャー
- III. 耕作土c. 黒色土 締り無. トレーチャー、ロームブロックを多く含む
1. 暗褐色土 締り有. やや硬い. ローム粒(1~3mm)をやや多く、焼土粒(1~3mm)を極少し、炭(1~3mm)を少し含む
2. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)と焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~5mm)を多く含む
2. 攪乱のため締り無く、ブロック状にグズグズ
3. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)を多く、焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~5mm)を多く含む
4. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)とソフトロームブロック(1~2cm大)を少し、炭(1~3mm)を極少し含む
5. 褐色土(暗) 締り有. ローム粒(1~3mm)を少し、ソフトロームブロック(1~2cm大)をやや多く、炭(1~3mm)を極少し含む
6. 褐色土 締り有. ソフトロームブロック(1~2cm大)を多量に含む
7. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒(1~3mm)とソフトロームブロック(1~2cm大)・炭(1~3mm)を少し含む
7. 締り無
8. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)を多く、ロームブロック(1cm大)を極少し、焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~5mm)を多く含む
9. 暗褐色土(暗) 締り有. ローム粒(1~3mm)を極多く、焼土粒(1~2mm)をやや多く、炭(1~3mm)を含む
10. 暗褐色土(やや黒い) やや硬い. 含有物・量は4層と同じ、ややローム粒が大きい
11. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒(1~3mm)を少し、焼土粒・炭を極少し含む
12. 褐色土 硬く締る. 褐色土ブロックに暗褐色土が混入、ローム粒(1~3mm)を少し含む
13. 暗褐色土(黒) 締り有. ローム粒(1~5mm)多く、焼土粒(1~3mm)少し、炭(1~5mm)極多く含む
14. 暗褐色土(暗) 締り弱. ローム粒(1~5mm)多く、焼土粒(1~3mm)少し、炭(1~5mm)多く含む
15. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)極多く、焼土粒(1~3mm)少し、炭(1~5mm)を極多く含む
16. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒(1~3mm)をやや多く、焼土粒(1~3mm)を極少し、炭(1~3mm)を多く含む
17. 褐色土 締り有. 硬い. ローム粒(1~3mm)を極多く、ロームブロック(1cm大)を少し、炭(1~3mm)を極少し含む
18. 黄褐色土 締り有. ローム粒主体、ソフトローム混合
19. 黄褐色土 非常に硬く締る. 床面. ロームブロック(1~2cm大)と暗褐色土の混合
20. 褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)極多く、ロームブロック(1cm大)・炭(1~3mm)少し含む
21. 褐色土 締り有. やや硬い. ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(1cm大)を多く含む
22. 褐色土 硬く締る. ローム粒とロームブロック主体、褐色土混入
23. 黒褐色土(黒) 締り有. ローム粒(1~3mm)と焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~5mm)を極多く含む
24. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)を少し、焼土粒(1~5mm)と炭(1~5mm)を多く含む
25. 褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)とロームブロック(1cm大)を多く含む、P3の3層と似る
26. 赤褐色土 炉床. 赤化面. 硬化する
27. 黒褐色土 炉床. 硬化面
28. 暗褐色土 締り弱. ローム粒(1~5mm)を極多く、炭(1~5mm)をやや多く含む
29. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒(1~5mm)を極多く、ロームブロック(1cm大)を少し含む
30. 褐色土 硬く締る. ローム粒(1~3mm)とロームブロック(1cm大)を多く含む、P3の3層と似る
31. 褐色土 締り有. ローム粒・ロームブロック主体. ビット7の5層と似る



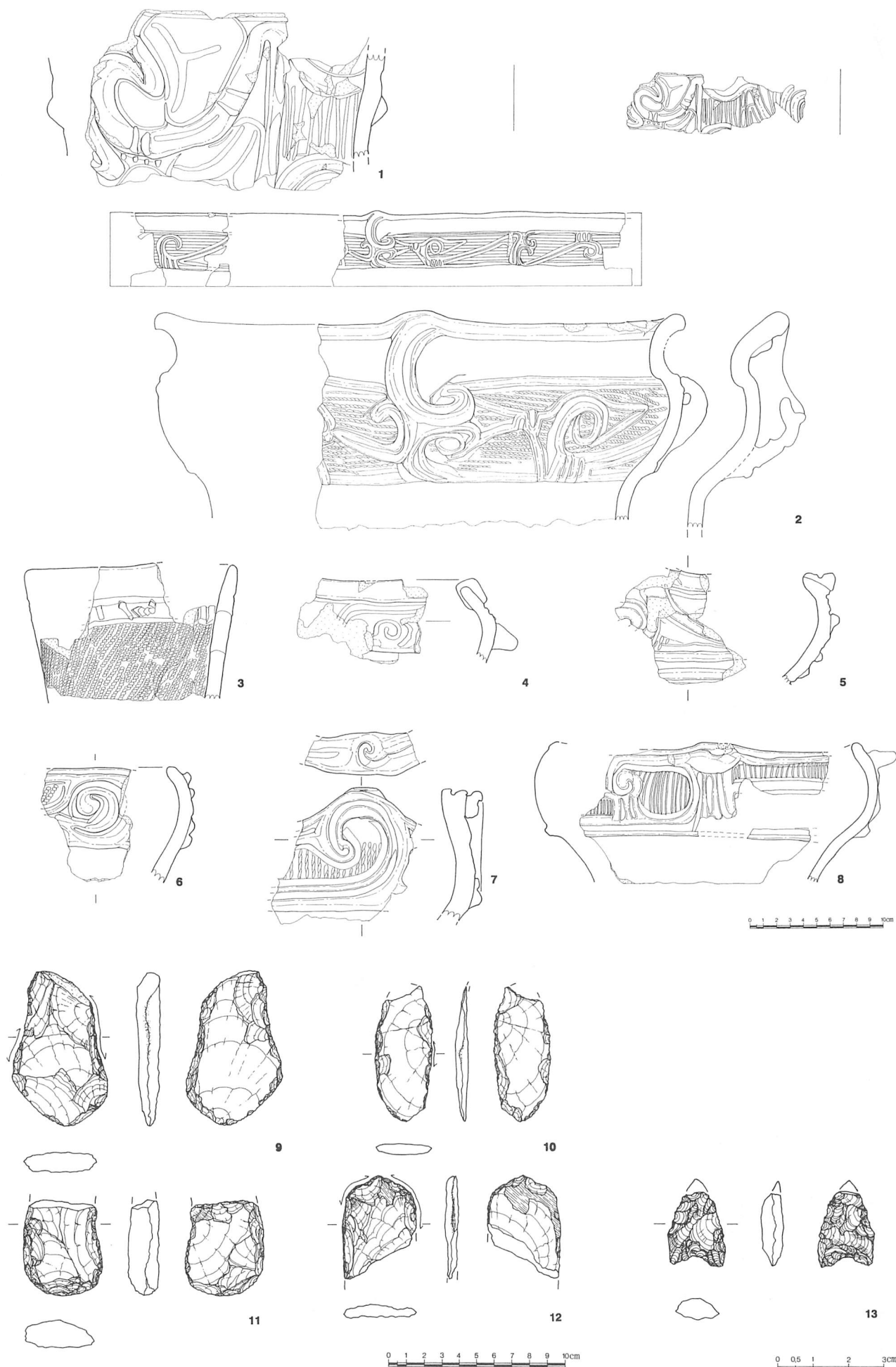
炉跡

1. 暗褐色土(やや黒)締り弱. ローム粒(1~3mm)を極少し、焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~5mm)を多く含む
2. 黒褐色土(黒)締り有. ローム粒(1~3mm)を極少し、焼土粒(1~3mm)を多く、炭(1~5mm)を極多く含む
3. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)を極少し、焼土粒(1~3mm)と、炭(1~3mm)を少し含む
4. 褐色土 締り有. 焼土粒(1~5mm)を極多く、炭(1~3mm)を多く含む
5. 黒褐色土(真黒)締り有. ローム粒(1~5mm)を多く、焼土粒(1~3mm)を極少し、炭(1~5mm)を多く含む
6. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)を少し、焼土粒(1~3mm)を多く、炭(1~3mm)を少し含む
7. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)・焼土粒(1~3mm)・炭(1~3mm)を少し含む
8. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)を多く、焼土粒(1~3mm)を少し、炭(1~3mm)を極少し含む
9. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)を極多く、焼土粒(1~3mm)・炭(1~3mm)を極少し、ロームブロック(1cm大)を多く含む
10. 暗褐色土 締り有. ローム粒(1~5mm)を極多く、焼土粒(1~3mm)・炭(1~3mm)を少し、ロームブロック(1cm大)を少し含む
11. 褐色土 締り有. ローム粒(1~3mm)を少し、焼土粒(1~3mm)・炭(1~3mm)を極少し含む
12. 褐色土 硬く締る. ローム粒(1~5mm)を極多く、焼土粒(1~3mm)・炭(1~3mm)を極少し含む、ローム粒主体
13. 赤褐色土 非常に硬くもろい. ロームの赤化面
14. 黄褐色土 非常に硬くもろい. ロームの硬化面

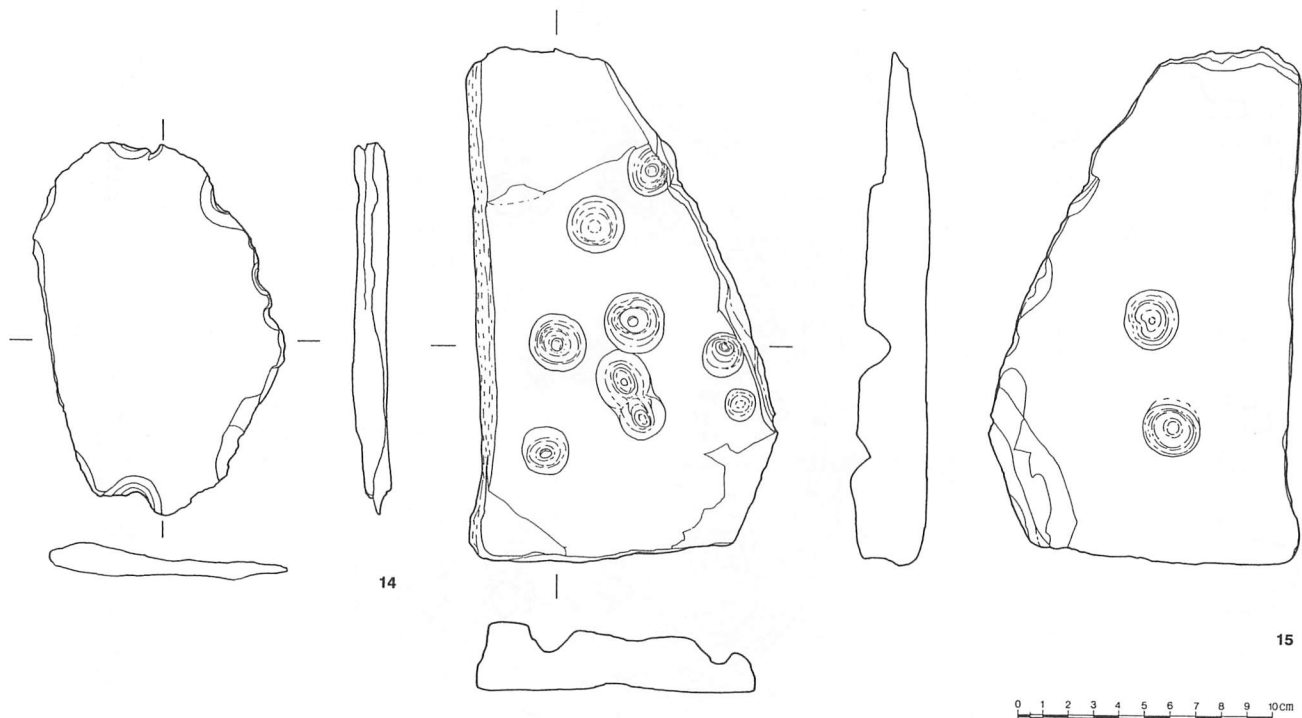
ビット

1. 黒褐色土 締り有. ローム粒を多く、焼土粒を極少し、炭を極多く含む
- 1' 硬く締る
2. 暗褐色土 締り有. ローム粒極多く、ロームブロックと焼土粒極少し、炭を多く含む
3. 暗褐色土(明) 締り弱. ローム粒極多く、ロームブロック少し、炭を多く含む
4. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒極多く、ロームブロックと炭を少し含む
5. 褐色土 締り有. ローム粒極多く、ロームブロック多く、炭を少し含む
6. 暗褐色土 締り有. やや硬い. 他は2層と似るがやや色が明るい
7. 暗褐色土(明) 締り有. やや硬い. ローム粒やや多く、焼土粒極少し、炭少し含む
8. 褐色土 硬く締る. ローム粒多く、ロームブロックやや多く含む
- 8' 締り無
9. 硬く締る. ロームブロックと褐色土の混合土
10. 褐色土 硬く締る. ローム粒とロームブロックを少し含む
- 10' 3層に似る、やや色が暗くローム粒が大きい
11. 褐色土 硬く締る. ローム粒とロームブロックを多く含む
12. 黄褐色土 硬く締る. ロームブロック主体に褐色土が混入
13. 褐色土(暗) 硬く締る. ローム粒多く、炭極少し含む
- 13' 締り有
14. 暗褐色土 締り有. ローム粒多く、ロームブロックを少し含む
15. 暗褐色土 締り有. ローム粒を極多く含む
16. 暗褐色土 締り有. ローム粒と炭多く、焼土粒を極少し含む
17. 暗褐色土 締り有. ローム粒極多く、ロームブロック少し、炭を極少し含む
18. 暗褐色土 締り有. ローム粒多く、炭を少し含む
19. 暗褐色土(明) 締り有. ローム粒・ロームブロック・炭を少し含む
20. 褐色土 締り有. ローム粒を極多く、ロームブロックを少し、炭をやや多く含む
21. 暗褐色土 締り弱. ローム粒を極多く、焼土粒を少し、炭を多く含む
22. 褐色土 締り有. 粘性有. ロームブロックを少し含む
23. 褐色土 締り有. ローム粒主体

第45図 西ノ原遺跡155号住居跡遺物出土状況、炭化物分布範囲(1/60)、炉(1/30)



第46図 西ノ原遺跡155号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3・2/3)



第47図 西ノ原遺跡155号住居跡出土遺物 2（1 / 3）

③165号住居跡

【位置】 調査区の中央に位置する。西ノ原遺跡縄文集落内では環状部分の西端にあたる。

【形状】 南側が狭くなる卵形を呈し、規模は4.9×4.9 m。確認面からの深さは50cm。壁はほぼ直立して立ち上がる。床面はほぼ平坦、ローム混じりの土で硬く踏み固められている。

【炉】 住居跡の中央やや北側に位置する。炉は土器の出土状況から新旧 2 ケ所の炉が作り替えられている。全体の規模は105×90cmである。

炉 1 は深鉢口縁部を転用した埋甕炉で、土器に囲われた炉床部と炉体土器の南側に焼土が堆積する。掘り込み規模は60×45cm、深さ19cm。炉体土器は加曽利 E 1 新式古相併行である。

炉 2 は炉体土器の北側にある掘り込み部分で、土器片が出土する。旧炉体土器の残滓と思われる。掘り込み規模は45×30cm、深さ15cm。出土土器は浅鉢の口縁部破片で、勝坂Ⅲ式である。

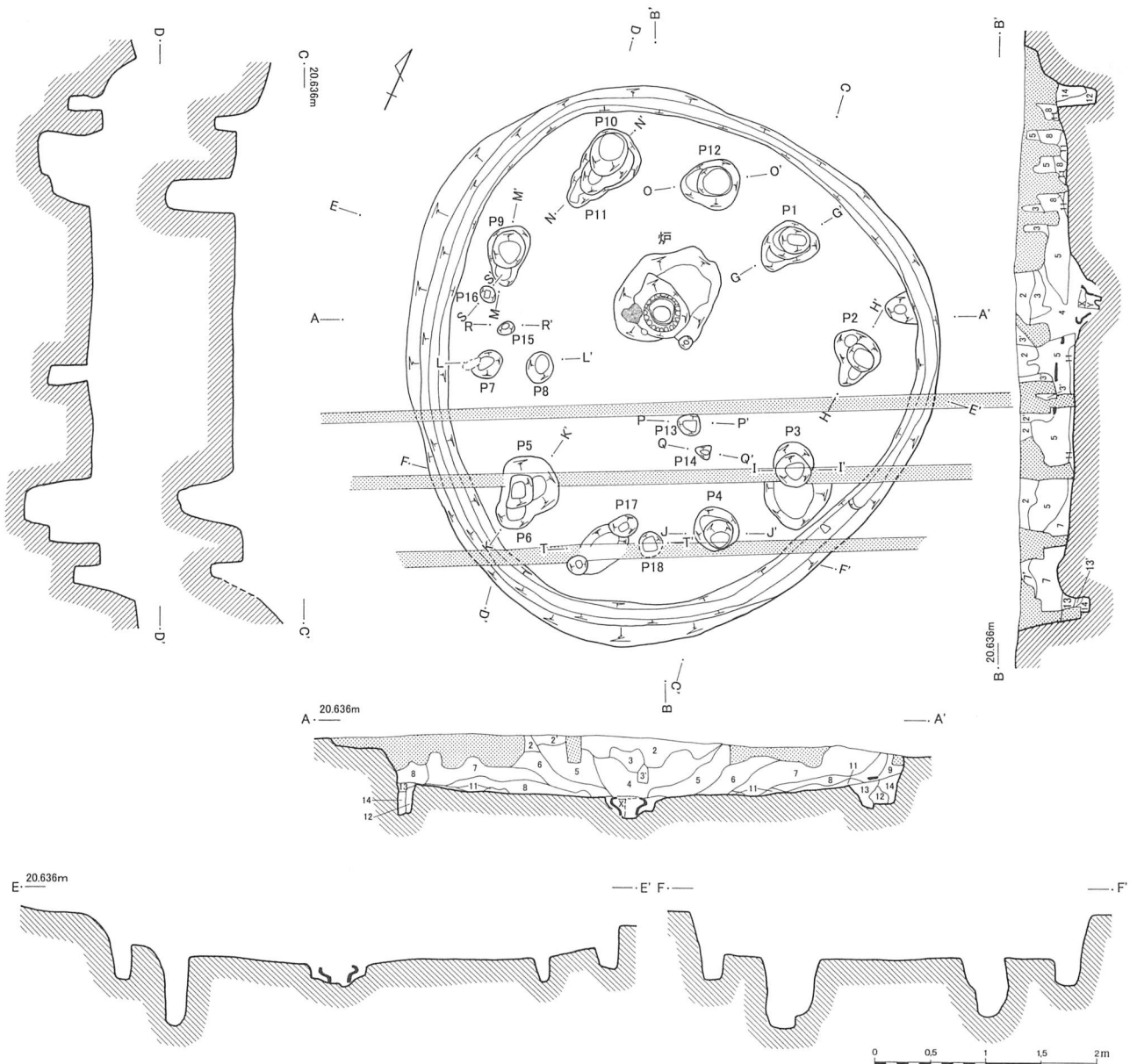
【周溝】 周溝は 1 本検出した。上幅は20前後cm、床面からの深さ30cm前後、断面「コ」字である。

【ピット】 主柱穴は 9 ケ所あり、うち 2 ケ所で掘り返しが行なわれている。9 本柱住居の可能性と建て替えの可能性があるが、新旧関係は不明である。

第19表 西ノ原遺跡165号住居跡ピット一覧表（単位cm）

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	不整形	55	× 38	17	× 5	63	
2	不整形	51	× 46	18	× 15	70	
3	円形	40	× 35	17	× 15	54	
4	円形	42	× 36	17	× 14	57	
5	不整形	29	× 19	15	× 12	23	P 6 より新
6	不整形	34	× (20)	18	× (11)	47	P 5 より旧
7	楕円形	30	× 21	18	× 10	67	
8	楕円形	39	× 26	18	× 12	39	
9	不整形	55	× 37	20	× 19	70	
10	楕円形	44	× 32	24	× 23	59	P11 より新
11	不整形	(36)	× 34	11	× (10)	38	P10 より旧
12	楕円形	54	× 47	24	× 23	58	
13	円形	19	× 19	13	× 11	34	
14	三角形	15	× 12	7	× 5	13	
15	楕円形	16	× 11	7	× 5	16	
16	ひし形	20	× 13	9	× 4	15	
17	楕円形	27	× 19	10	× 6	38	
18	円形	22	× 22	13	× 12	28	

【時期】 炉体土器から炉 1 の住居は加曽利 E 1 新式古相である。

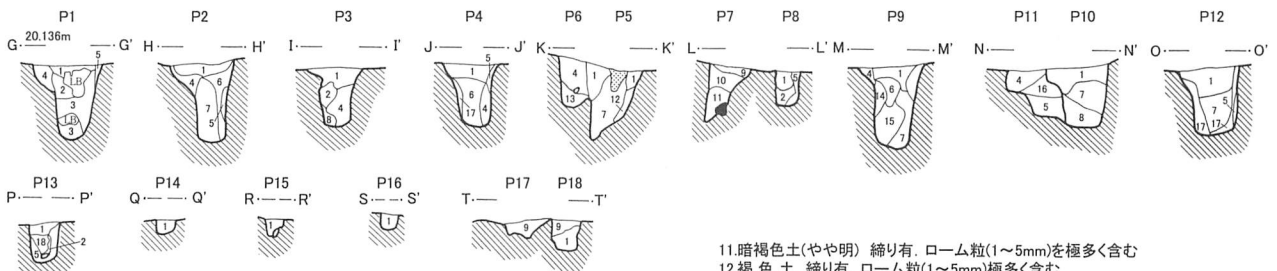


1. 褐色土 硬く締る。
2. 暗褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)を少し、炭(1mm)を極少し含む
- 2' 攪乱で締り無
3. 暗褐色土 硬く締る。ローム粒(1~3mm)・焼土粒・炭(1mm)・褐色土ブロック(1~3cm大)を少し含む
- 3' 攪乱で締り無
4. 暗褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)をやや多く、焼土粒・炭(1mm)を少し含む
5. 暗褐色土 硬く締る。ローム粒(1~3mm)を多く、焼土粒・炭(1mm)を少し、褐色土ブロック(1~3cm大)を多く含む
6. 暗褐色土 硬く締る。ローム粒(1~3mm)を多く、焼土粒・炭(1mm)を少し含む
7. 暗褐色土(明)締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く、ロームブロック(1cm大)を少し、炭(1mm)を極少し含む
- 7' 攪乱で締り無

8. 暗褐色土(明)締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く、炭(1mm)を極少し含む
9. 褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く、炭(1mm)を極少し含む
10. 黄褐色土 締り有。ソフトローム主体
11. 褐色土 硬く締る。床面、ロームブロックと褐色土の混合
12. 暗褐色土 締り有。硬い、ローム粒・ロームブロック(1cm大)を多く含む
13. 褐色土 締り有。ローム粒を少し含む 13' 褐色土 ソフトローム含む
14. 暗褐色土 締り有。ローム粒を若干含む程度で少ない

炉内覆土

- X. 暗褐色土 締り弱。焼土含まない
Y. 締り弱。焼土粒(1mm)をやや多く含む 全体は軟質で、焼土を含まない面もある

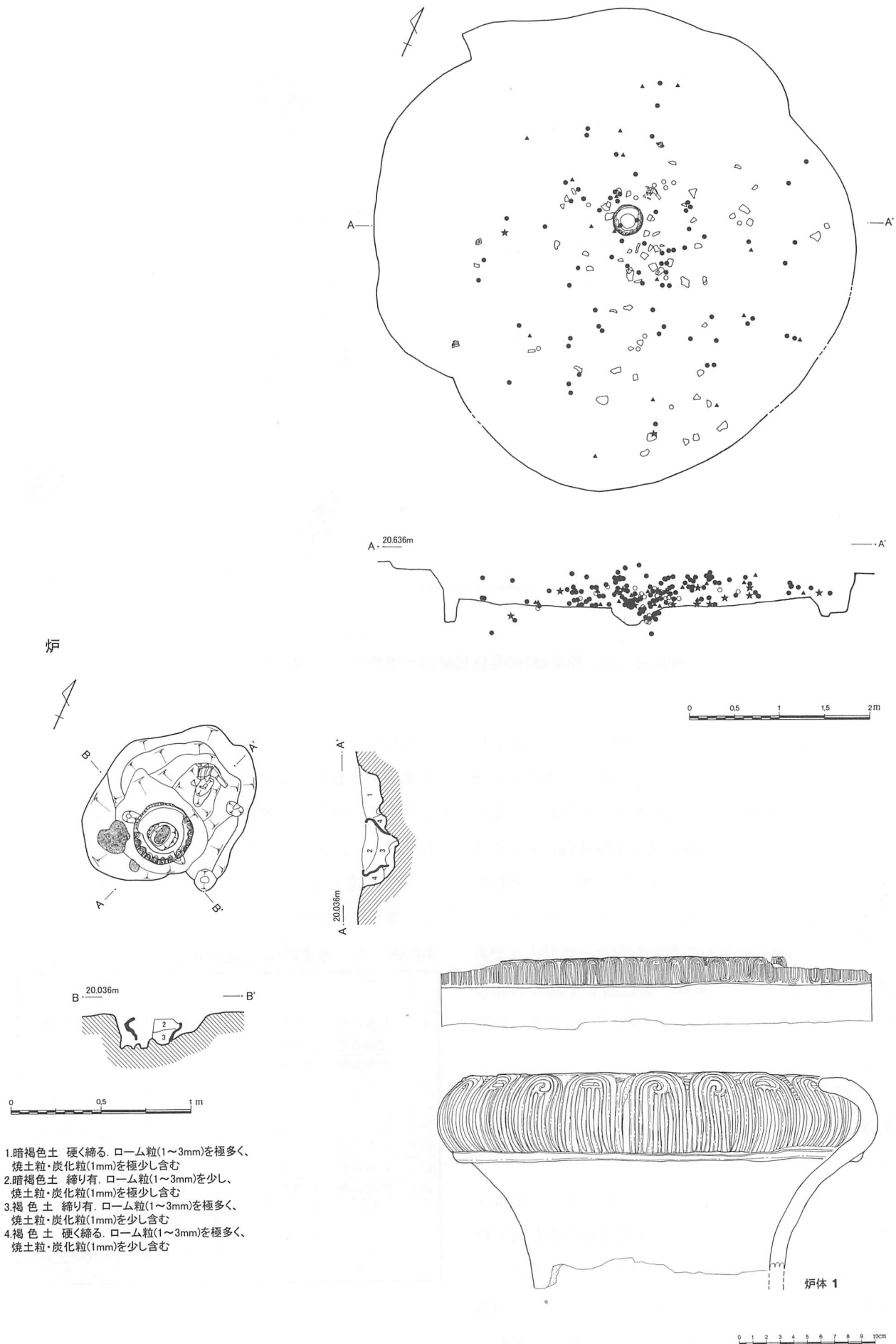


ピット1~18

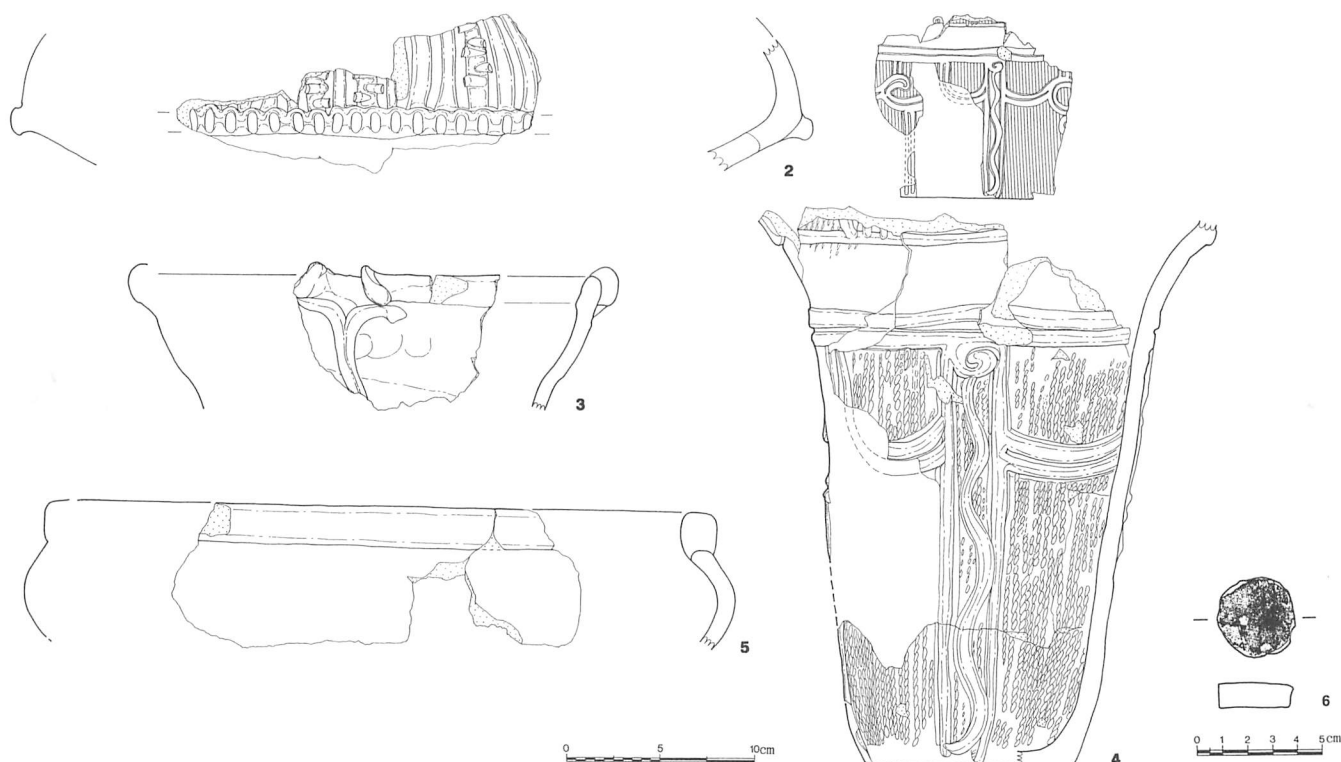
1. 暗褐色土 硬く締る。ローム粒(1~3mm)を極多く含む
2. 褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)主体
3. 褐色土 締り弱。ローム粒(1~3mm)主体、ロームブロック(1cm大)を極多く含む暗褐色土が混入
4. 褐色土 硬く締る。ローム粒(1~3mm)主体、ロームブロック(1cm大)を多く含む
5. 黄褐色土 硬く締る。ロームブロック主体
6. 暗褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く含む
7. 暗褐色土 締り弱。ローム粒(1~3mm)を多く、ロームブロック(1cm大)を少し含む
8. 暗褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く、ロームブロック(1cm大)を多く含む
9. 1層と似るが、1より非常に硬い
10. ロームブロック(2~5cm大)主体 硬く締る。褐色土混入

11. 暗褐色土(やや明) 締り有。ローム粒(1~5mm)を極多く含む
12. 褐色土 締り有。ローム粒(1~5mm)極多く含む
13. 黄褐色ローム主体、硬く締る。
14. 暗褐色土 締り弱。ローム粒(1~3mm)を極多く、褐色土ブロックを少量含む
15. 暗褐色土 締り弱。ローム粒(1~3mm)を極多く含む
16. 褐色土 硬く締る。4層と似るが、ロームブロックの色は黄色で少ない
17. 暗褐色土 締り有。ローム粒(1~3mm)を極多く、ロームブロック(1cm大)を少し含む
18. 暗褐色土 締り有。

第48図 西ノ原遺跡165号住居跡 (1/60)



第49図 西ノ原遺跡165号住居跡遺物出土状況 (1/60)、炉 (1/30)、出土土器 1 (1/4)



第50図 西ノ原遺跡165号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)

【出土遺物】1は炉体土器で、口縁から広い頸部文様帯下部までをほぼ完存し、口縁部文様帯最大径32.7cm・現存部高15.8cmである。深鉢の口唇が水平となるまで内傾する器形で、口縁部文様帯は沈線による褶曲文の連続であり、口唇側での沈線列内側上部は渦状をなすものが多く、褶曲文間には不同の沈線列が入る。胎土には白色細砂粒と石英粉末を含み、整形入念で黄褐色を呈し焼成良好である。加曽利EⅠ新式古相併行の中部山地又は北関東系の土器であり、住居の時期を示す。

2は炉内出土の浅鉢の口縁部文様帯部片で、地文は沈線で隆帯上には刻目をいれる。勝坂Ⅲ式の土器である。

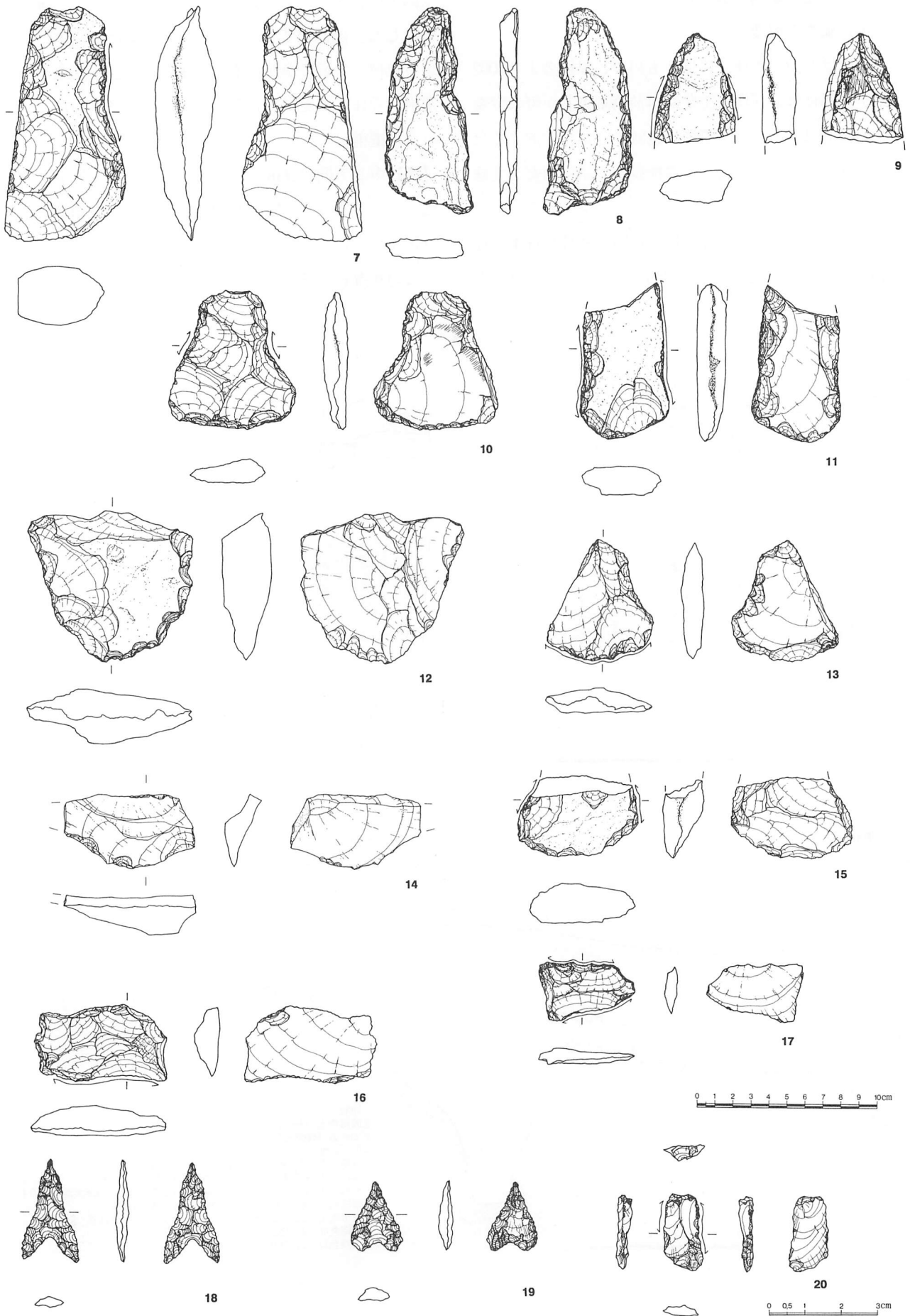
3は小深鉢の口縁で、口縁内側に段をもち、噴水状の上部をもつ懸垂文があり、胎土に雲母を含む阿玉台式土器である。4は口縁部文様帯最下部から底に至る深鉢で、現存高28cmである。短い頸部無文帯下の胴部には地文の熱糸文の上に貼付隆帯による懸垂文があるが、垂下隆帯を結ぶ弧状隆帯、狭い間隔の垂下隆帯間

に蛇行懸垂文を入れる。通常の加曽利EⅠ式とは異なる要素を含むが、加曽利EⅠ新式古相に併行する。5は直立口縁をもつ無文浅鉢で加曽利E期のものである。6は側縁調整の著しい無文の土製円盤。

その他覆土中より土器260片が出土したが割愛した。礫も155点出土する。

第20表 西ノ原遺跡165住居跡出土石器観察表 (単位cm・g)

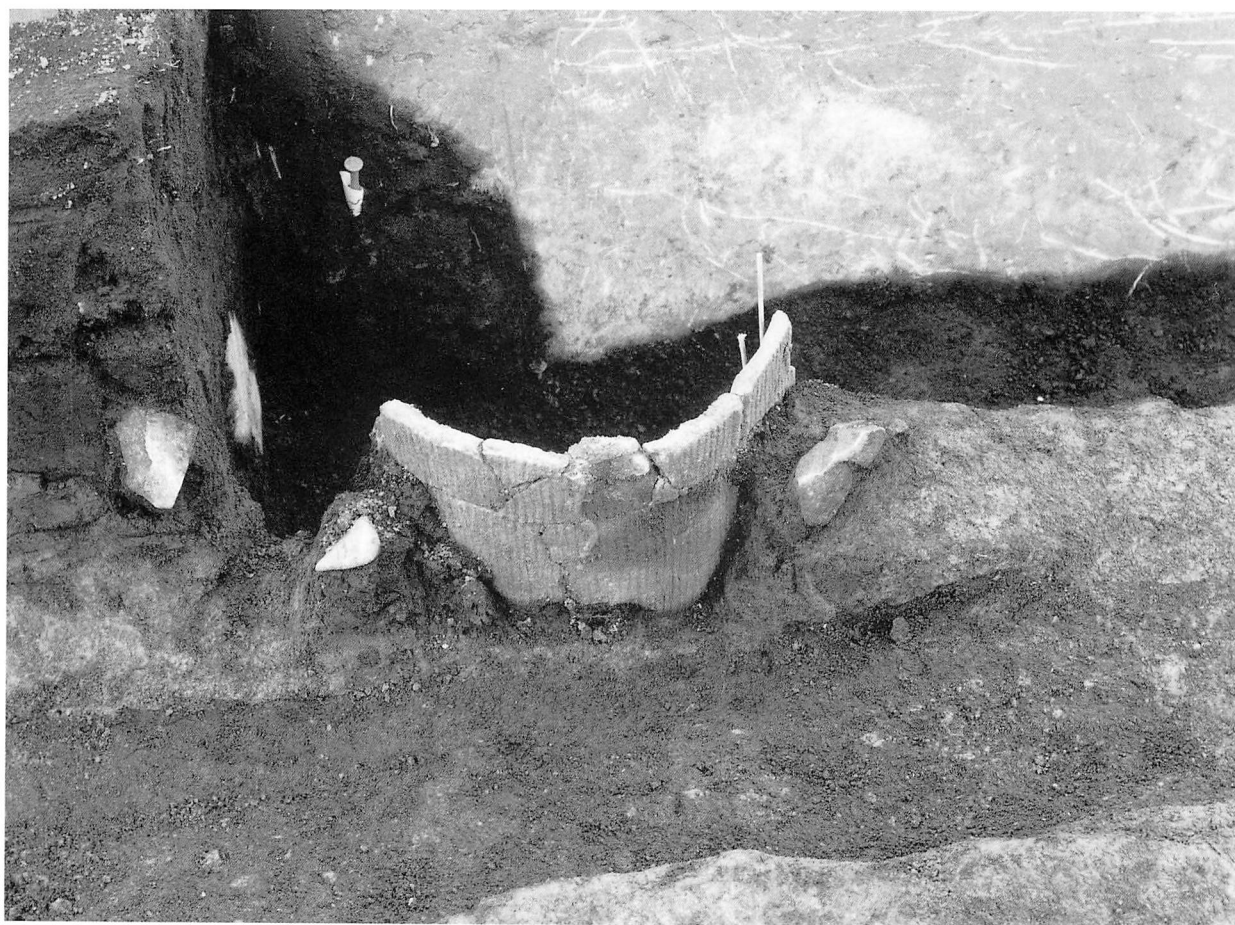
	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重量	
7	打製石斧	砂岩	8.7	5.4	1.3	64.2	基部欠
8	打製石斧	片岩	7.5	3.3	0.7	20.8	凹み石転用
9	打製石斧	砂岩	5.6	3.6	1.6		刃部欠
10	打製石斧	黒色頁岩	5.4	4.4	1.7	60.0	
11	打製石斧	砂岩	5.7	4.2	0.7	19.1	基部欠
12	打製石斧	砂岩	2.1	1.6	0.6	2.1	基部欠
13	打製石斧	黒色頁岩	8.7	5.4	1.3	64.2	基部欠
14	打製石斧	頁岩	7.5	3.3	0.7	20.8	
15	打製石斧	黒色頁岩	5.6	3.6	1.6		基部欠
16	打製石斧	砂岩	5.4	4.4	1.7	60.0	
17	打製石斧	砂岩	5.7	4.2	0.7	19.1	基部欠
18	石鏃	チャート	2.1	1.6	0.6	2.1	
19	石鏃	黒曜石	8.7	5.4	1.3	64.2	基部欠
20	使用剥片	黒曜石	7.5	3.3	0.7	20.8	基部欠



第51図 西ノ原遺跡165号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3)



西ノ原遺跡第122地点33号住居跡



西ノ原遺跡第122地点33号住居跡炉



西ノ原遺跡第122地点155号住居跡



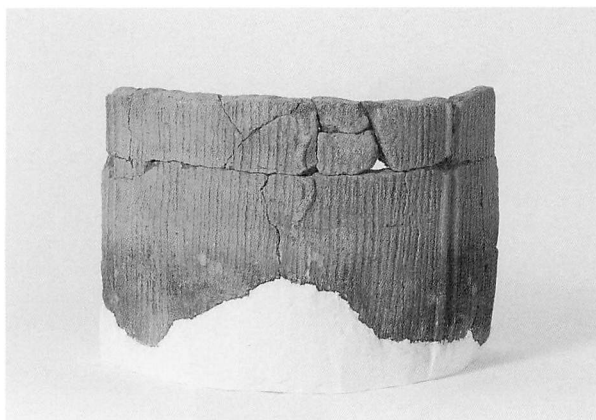
西ノ原遺跡第122地点155号住居跡炉



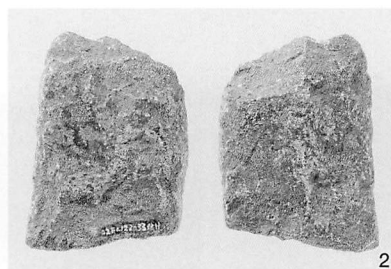
西ノ原遺跡第122地点165号住居跡



西ノ原遺跡第122地点165号住居跡炉



西ノ原遺跡33号住居跡炉体土器

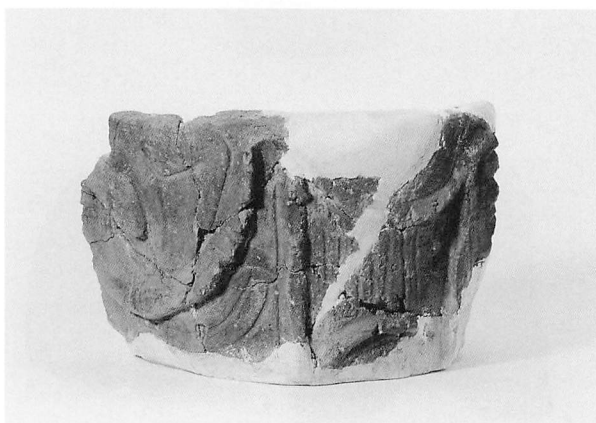


2



3

西ノ原遺跡33号住居跡出土石器



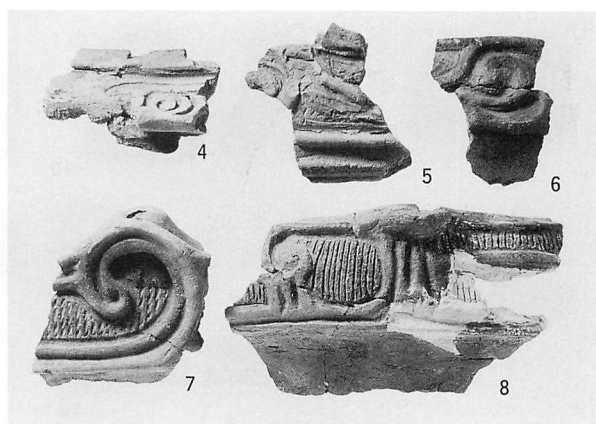
西ノ原遺跡155号住居跡炉体土器 1



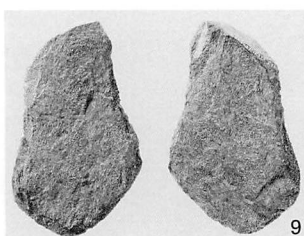
西ノ原遺跡155号住居跡炉体土器 2



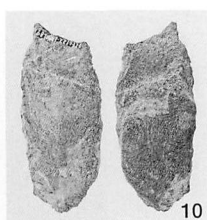
西ノ原遺跡155号住居跡出土土器 3



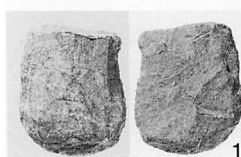
西ノ原遺跡155号住居跡出土土器



9



10



11



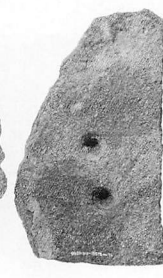
12



13



14



15

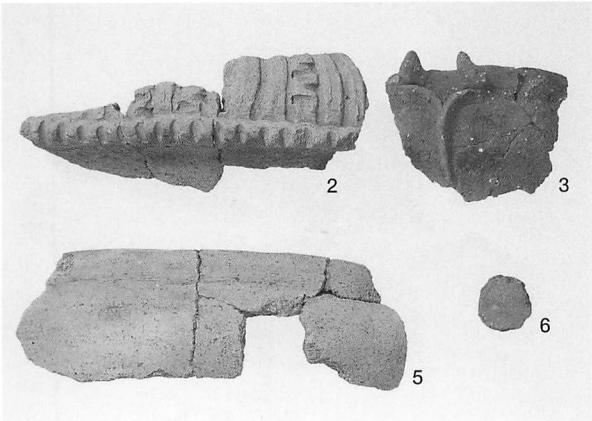
西ノ原遺跡155号住居跡出土石器



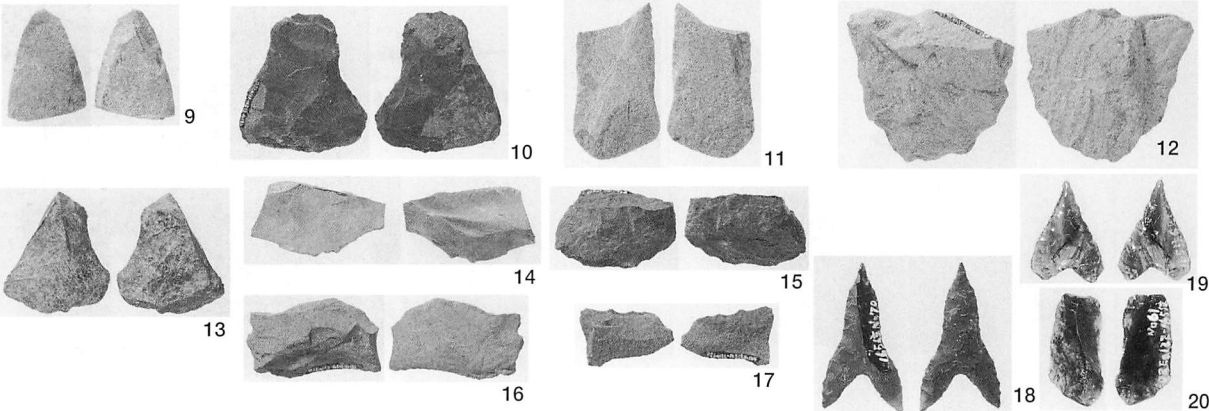
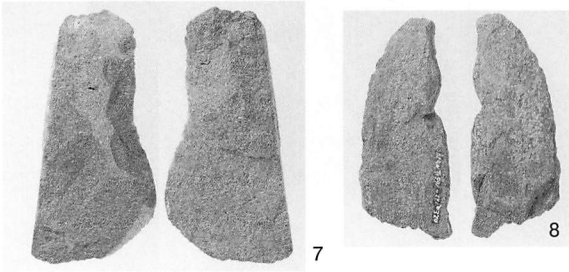
西ノ原遺跡165号住居跡炉体土器



西ノ原遺跡165号住居跡出土土器 4



西ノ原遺跡165号住居跡出土土器



西ノ原遺跡165号住居跡出土石器



西ノ原遺跡第123地点試掘調査



西ノ原遺跡第123地点試掘調査溝